

種市町埋蔵文化財調査報告書 第1集

平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書

平内工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査

2004. 3

岩手県種市町教育委員会

平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書

平内工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査

序

種市町は岩手県の最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、東は太平洋、西は軽米町、大野村、南は久慈市に接する自然豊かな漁業と農林業の町です。町内には現在69カ所の遺跡が登録されています。先人の残したこれらの文化遺産を保護し、保存していくことは私たち町民に課せられた重大な責務であります。

本報告書は、平内工業団地整備に伴う平内Ⅱ遺跡の埋蔵文化財調査の結果をまとめたものです。今回の調査により、本遺跡が縄文時代の狩猟の場であることが明らかになりました。この調査の結果が今後この地域の歴史を解明する上で、いささかでもお役に立てれば幸いです。また、本書が関係者はもちろん、広く町民の方々に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護に多少なりとも寄与されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、多大なご助言ご協力をいただきました関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成16年3月

種市町教育委員会
教育長 工 藤 保

例 言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡種市町第43地割100番63ほかに所在する、平内Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、平内工業団地整備事業に伴う事前の緊急発掘調査であり、種市町教育委員会が実施した。
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号はIF48-0017である。
4. 調査主体者 種市町教育委員会生涯学習課
担当者：千田政博
5. 調査指導 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
6. 資料の分析、鑑定については下記の方々、機関に依頼した。(順不同・敬称略)
遺跡の地質調査：八戸市文化財審議員 松山力
石器の石材鑑定：花崗岩研究会 (代表：矢内桂三)
遺跡の自然科学分析：バリノ・サーヴェイ株式会社
出土遺物の自然科学分析：岩手県立博物館 (赤沼英男・映山まどか)
7. 依頼原稿の執筆者氏名は、文頭に記載してある。
8. 第三章並びに付篇を除き本報告書の執筆・編集・構成は千田政博が担当した。
9. 野外調査、室内整理作業及び本報告書の作成等に際しては、下記の方々、機関からご指導、ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。(五十音順、敬称略)
安達尊伸、稲野裕介、井上雅孝、宇部剛保、小原眞一、北上市埋蔵文化財センター、木戸口俊子、君島武史、日下和寿、栗村知弘、佐々木清文、佐々木浩一、佐藤嘉広、高橋千晶、滝沢村埋蔵文化財センター、千葉周秋、千葉啓蔵、時田里志、七崎修、野田尚志、平山明寿、藤田俊雄、藤田直行、古里淳、丸山浩治、水沢市埋蔵文化財調査センター、森淳、森千鶴子
10. 野外調査においては、次の方々にご協力いただいた。(順不同、敬称略)
横手春蔵、大下キヨ、庭瀬トモ、阿部美恵子、上山シフ、庭瀬ツセ、佐々木ハツエ、井戸向ツヨノ、城下リセ、野田カツ、佐藤みね、北川カヨ、北澤ユミ、中上エイヨ、信田ヨウ子、大久保芳江、鹿島ヒデ、加登フミ、磯崎鶴松、角嶋千代松、板橋正武、村井一男、中上貞夫、天満隆、香香清吉、野口栄一、中下啓蔵
11. 遺構実測作図・室内整理・報告書作成にあたって、次の方々にご協力いただいた。(五十音順、敬称略)
磯谷秀子、大久保香、上平りつ、鹿島伸子、滝口貴子、中家佳代子、万徳美智子
12. 土層の色調観察は「新版標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 1999)を用いた。
13. 座標原点の測量及び空中写真撮影測量は、次の機関に委託した。
座標原点の測量：株式会社ハイマーテック
空中写真撮影測量：株式会社フジテクノ
14. 調査で得られた出土遺物や整理に関わる諸記録等については、種市町教育委員会が保管、管理している。
15. 引用・参考文献については文末に収めた。

目 次

序	
例 言	
目 次	
凡 例	

本 文

I. 調査に至る経緯	2
II. 調査の概要	
1. 野外調査について	2
2. 室内整理作業について	3
III. 平内II遺跡の地学的環境	
1. 位置と地形	4
2. 周辺の地質と近域の岩石分布	6
3. 遺跡の土層序	11
IV. 種市町内の遺跡	16
V. 検出された遺構と遺物	
1. 竪穴状遺構	21
2. 土坑	22
3. 溝状土坑	34
4. 焼土遺構	54
VI. 遺構外出土遺物	
1. 土器	56
2. 石器	57
3. 鉄製品	59
4. 煙管	60
5. 銭貨	60
VII. 調査のまとめ	90
1. 遺構	90
2. 遺物	91
3. まとめ	92
付 録	
I. 平内II遺跡の自然科学分析	96
II. 平内II遺跡出土遺物の自然科学的調査	114
報告書抄録	167

表

第1表	段丘区分対照表	4	第9表	土器観察表(2)	82
第2表	遺跡周辺の段丘(面)区分	6	第10表	土器観察表(3)	83
第3表	十和田火山の更新世末 ～完新世火山灰編年	10	第11表	土器観察表(4)	84
第4表	町内の遺跡一覧	19	第12表	土器観察表(5)	85
第5表	遺構一覧表(1)	78	第13表	石器観察表(1)	86
第6表	遺構一覧表(2)	79	第14表	石器観察表(2)	87
第7表	遺構一覧表(3)	80	第15表	石器観察表(3)	88
第8表	土器観察表(1)	81	第16表	石器観察表(4)	89

図 版

第1図	遺跡位置図	1	第21図	焼土遺構	54
第2図	遺跡周辺の地形区分図	5	第22図	遺構内出土遺物	55
第3図	土層対比図	11	第23図	遺構外出土遺物 土器(1)	61
第4図	町内の遺跡	18	第24図	遺構外出土遺物 土器(2)	62
第5図	調査区周辺の地形と グリット配置図	20	第25図	遺構外出土遺物 土器(3)	63
第6図	竪穴状遺構	21	第26図	遺構外出土遺物 土器(4)	64
第7図	土坑SK01～05	29	第27図	遺構外出土遺物 土器(5)	65
第8図	土坑SK06～12	30	第28図	遺構外出土遺物 土器(6)	66
第9図	土坑SK13～17	31	第29図	遺構外出土遺物 石器(1)	67
第10図	土坑SK18～25	32	第30図	遺構外出土遺物 石器(2)	68
第11図	土坑SK26～34	33	第31図	遺構外出土遺物 石器(3)	69
第12図	溝状土坑TP01～05	45	第32図	遺構外出土遺物 石器(4)	70
第13図	溝状土坑TP06～10	46	第33図	遺構外出土遺物 石器(5)	71
第14図	溝状土坑TP11～15	47	第34図	遺構外出土遺物 石器(6)	72
第15図	溝状土坑TP16～20	48	第35図	遺構外出土遺物 石器(7)	73
第16図	溝状土坑TP21～25	49	第36図	遺構外出土遺物 石器(8)	74
第17図	溝状土坑TP26～30	50	第37図	遺構外出土遺物 石器(9)	75
第18図	溝状土坑TP31～35	51	第38図	遺構外出土遺物 石器(10)	76
第19図	溝状土坑TP36～40	52	第39図	遺構外出土遺物 鉄製品・煙管・鉄貨	77
第20図	溝状土坑TP41～45	53			

写 真 图 版

写真図版 1	遺跡遠景・近景	123	写真図版 24	溝状土坑(8)	146
写真図版 2	調査前近景	124	写真図版 25	溝状土坑(9)	147
写真図版 3	調査区全景	125	写真図版 26	溝状土坑(10)	148
写真図版 4	調査後近景・ 遺物出土状況	126	写真図版 27	溝状土坑(11)	149
写真図版 5	土層序	127	写真図版 28	溝状土坑(12)	150
写真図版 6	竪穴状遺構・土坑(1)	128	写真図版 29	溝状土坑(13)	151
写真図版 7	土坑(2)	129	写真図版 30	溝状土坑(14)	152
写真図版 8	土坑(3)	130	写真図版 31	溝状土坑(15)	153
写真図版 9	土坑(4)	131	写真図版 32	溝状土坑(16)・焼土遺構	154
写真図版 10	土坑(5)	132	写真図版 33	遺構内出土遺物・ 遺構外出土遺物 土器(1)	155
写真図版 11	土坑(6)	133	写真図版 34	遺構外出土遺物 土器(2)	156
写真図版 12	土坑(7)	134	写真図版 35	遺構外出土遺物 土器(3)	157
写真図版 13	土坑(8)	135	写真図版 36	遺構外出土遺物 土器(4)	158
写真図版 14	土坑(9)	136	写真図版 37	遺構外出土遺物 土器(5)	159
写真図版 15	土坑(10)	137	写真図版 38	遺構外出土遺物 石器(1)	160
写真図版 16	土坑(11)	138	写真図版 39	遺構外出土遺物 石器(2)	161
写真図版 17	溝状土坑(1)	139	写真図版 40	遺構外出土遺物 石器(3)	162
写真図版 18	溝状土坑(2)	140	写真図版 41	遺構外出土遺物 石器(4)	163
写真図版 19	溝状土坑(3)	141	写真図版 42	遺構外出土遺物 石器(5)	164
写真図版 20	溝状土坑(4)	142	写真図版 43	遺構外出土遺物 石器(6)	165
写真図版 21	溝状土坑(5)	143	写真図版 44	遺構外出土遺物 鉄製品・煙管・銭貨	166
写真図版 22	溝状土坑(6)	144			
写真図版 23	溝状土坑(7)	145			

付 図

平内Ⅱ遺跡 遺構配置図 木冊巻末

凡 例

1. 遺構図版の縮尺は、堅穴状遺構 1/40、土坑・溝状土坑 1/60、焼土遺構 1/10である。
2. 本書で使用する遺構表示記号は下記による。
SI：堅穴状遺構 SK：土坑 TP：溝状土坑
3. 遺構層位は、土層対比図にはローマ数字、各遺構覆土等に算用数字を使用した。
4. 本報告書に記載した遺構実測図に付した方位は、国家座標第X系による座標北を示す。
5. 遺物図版の縮尺は、土器実測図 1/3、土器拓影図 1/3、剥片石器実測図 2/3、礫石器実測図 1/3、鉄製品・煙管実測図 2/3、銭貨拓影図 1/1とした。
6. 遺構写真図版は縮尺不定である。掲載順は遺構図版と同様である。
7. 遺物写真図版については、土器類 1/3、剥片石器 2/3、礫石器 1/3、鉄製品・煙管・銭貨 1/1とした。掲載順は遺物図版と同様である。
8. 使用した地図は、建設省国土地理院発行の5万分の1及び2万5千分の1の地形図である。
9. 遺構、遺物で使用了スクリーントーンの用例は下図に示したとおりである。
10. 遺構一覧表中の規模の () は残存値 (遺構の一部が調査区外等へ延びる場合の測定値を含む)、< > は推定値である。遺物観察表中の法量についても同じく残存値は ()、推定値は < > で表示した。

(遺構図版 スクリーントーン用例)



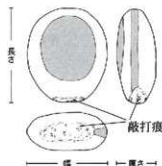
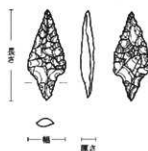
焼土

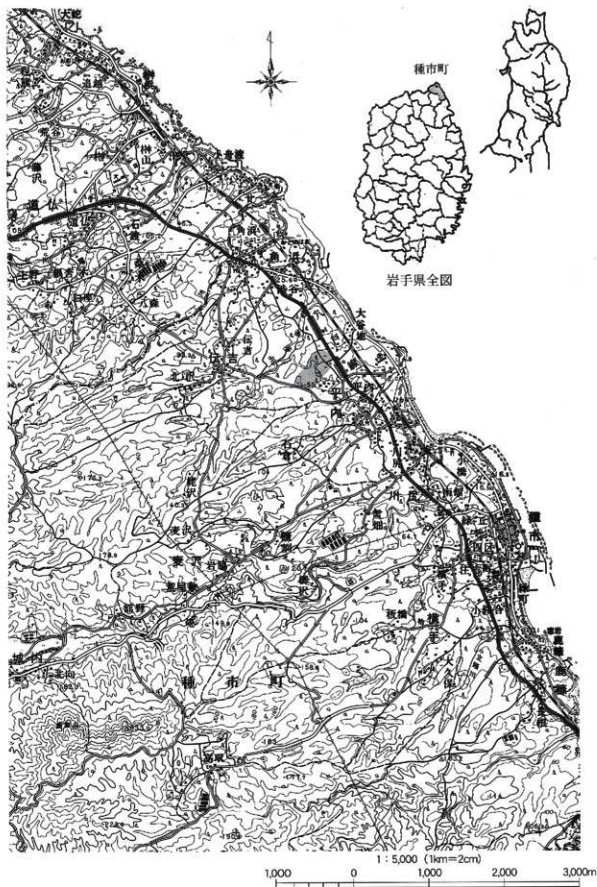
(遺物図版 スクリーントーン用例)



埴面

(遺物)





第1圖 遺跡位置圖

I. 調査に至る経緯

平内Ⅱ遺跡は、本町事業である平内工業団地整備に伴い、発掘調査を実施することとなったものである。当地は、昭和48年度に農村地域工業導入促進法に基づき農村地域工業導入実施計画を策定し、平内地区（計画地区）を指定した。昭和54年度に町勢発展計画、昭和61年度に総合発展計画、そして平成8年度には第二次総合発展計画に盛り込み実施の計画を進めてきた。平成3年から平成4年まで平内農工団地水量調査（電気探査・ボーリング調査）を行い、平成4年度に工業団地整備について町長決裁を得たことから用地交渉を開始した。平成9年度において用地の取得に目処が立ったことから、平内工業団地整備基本計画を策定し、平成10年度において特別会計を設け工業団地造成に向け実施設計に着手した。

しかし平成10年6月に埋蔵文化財について指摘があり、埋蔵文化財の所在の有無について種市町長から町教育長あてに照会がなされた。岩手県遺跡台帳によると当該地は文化財保護法による周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、当町では遺跡分布調査を行っておらず多くの遺漏があると思われる、また当該計画区域は面積が广大であり、工業団地基本図から見ると今まで知られていない遺跡が存在する可能性があるため、同年7月に岩手県教育委員会事務局文化課により、試掘調査が必要であると指導を受けた。この造成予定地を便宜的に国道45号線から西へA・B・C・Dの4つの区に区切り、岩手県教育委員会事務局文化課の指導の下、同年11月19日～12月15日にかけて試掘調査を行い、当該地は全城埋蔵文化財包蔵地であることが確認された。これを受けて翌11年4月に町企画開発課との協議で、造成工事は用地西側から開始したいとの要望でD区から調査を開始することとなった。同年5月にD区の範囲確認調査を行い、6月28日よりD区の一部本調査を開始した。調査面積は平成11年度が約1,700㎡、平成12年度は約5,200㎡、平成13年度は約9,000㎡である。

II. 調査の概要

1. 野外調査について

本調査区は南北方向62m～152m、東西方向183m～191mの範囲に及ぶ不整形である。これら全てを共通の座標でカバーするために、平面直角座標X系にのせて区画を設定した。区画原点は第X系X=47520.000m、Y=72400.000mである。この原点から東方及び北方へ一辺20mの大区画を設定し、この一辺をそれぞれ5等分して4m毎の小区画とした。区画名は大区画に対しては東方へ算用数字、北方へ大文字アルファベットを順に与えた。本調査区は遺物量が少なく、遺構密度も薄いことから大グリットを基本としたが、一部遺物を多く包含する場所があり、その範囲は一辺をそれぞれ5等分して4m毎の小区画とした。小グリットに対しては北方向に小文字アルファベットをa～eまで、東方向に算用数字を1～5まで順に与えるという方法である。これらの組み合わせにより、大グリット名はA1、B2、C3…、小グリット名は大グリット名を冠してG11a1、G12b2…のように表した。

なお、グリット設定のために設置した基準点の成果値は以下の通りである。

基準点1（F7グリット） X=47636.000 Y=72496.000 H=46.950

基準点2（F5グリット） X=47636.000 Y=72456.000 H=45.745

（補点1 F5グリット） X=47636.000 Y=72516.000 H=44.761

（補点2 F7グリット） X=47628.000 Y=72496.000 H=47.289

平成12年度以降の調査では上記の基準点を元に業者に委託し設置した。

本調査地は、埋没谷を挟み丘陵地形で北方向に緩やかに、谷部はやや急に傾斜し、標高差は10m以上ある。丘陵上の表土は比較的薄く、埋没谷底部は丘陵上から流れ込んだと思われる黒色土が厚く堆積している。遺物量が希少であることから重機を使用して表土を取り除き遺構検出作業を行った。斜面地形で堆積状況が異なるため遺構の検出面も場所によって異なり、土層対比図の第IV層～VI層で行った。遺物を含む範囲は人力により手掘りで表土を除去し遺構検出作業を行った。

遺構の精査については、遺構の規模によって2分法、4分法で行い土層の堆積状況を確認した後完掘した。確認面から遺構の底面までの覆土は移植ベラでの削削作業とした。遺構の名称は野外調査で検出順に仮称番号を設定し、室内整理作業において新たに番号を付け登録した。遺構の平面実測は1m×1mのメッシュに区切り簡易遣り方で行い、縮尺の基準は1/20とした。

野外調査での写真撮影は遺構、遺物の検出状況や出土状況に応じて適宜行うこととし、6×7判カメラ1台（モノクローム）、35mmカメラ2台（モノクローム・カラーリバーサル）を使用した。空中写真撮影（4×5in：モノクロ、6×6cmカラー）は調査の終盤段階で委託業務として行った。

なお、各年度とも調査終了後に埋蔵文化財に対する啓蒙活動の一環として、町内住民を対象として調査成果を公開する現地説明会を開催した。

2. 室内整理作業について

室内整理作業は、各年度の冬季期間と平成14年度に行い、平成15年度に報告書作成作業を行った。遺物については水洗後注記作業を行い、各グリッド、遺構毎の仕分け、接合、復元の順に進めた。土器類は報告書掲載用のものを選別後、登録作業、実測、拓影図作成、トレース、写真撮影を行った。石器類は器種毎に登録し、実測、トレース、写真撮影を行い、鉄製品についても実測、拓影図作成、トレース、写真撮影を行い遺物図版、遺物写真図版を作成した。

野外調査で作成した図面は、原因の標高等の確認、断面図の点検をし必要に応じて第2原因を作成した。その後トレース作業を行い遺構図版を作成した。そして遺構・遺物図版、遺構・遺物写真図版の図版組を行った。

また、これらの作業と併行して出土遺物の計測、石器の石材鑑定、自然科学分析等を行い原稿を執筆した。

Ⅲ. 平内Ⅱ遺跡の地学的環境

八戸市文化財審議員 松山 力

1. 位置と地形

平内Ⅱ遺跡は北東方の太平洋岸から約1km、北西方の青森県境から1.5km余の緩やかに起伏する丘陵上にある。今回発掘調査された区域は、北緯40° 25' 31" 東経141° 41' 20" 地点の北側斜面を主とする区域である。

遺跡を含む地域は、北上山地北端の種市岳（岩手県側の呼名）＝陸上岳（青森県側の呼名）の北側から東側を取り巻いて南方に続く丘陵地域の東側にあり、幾段もの段丘群で構成される。

丘陵を構成する段丘群は、青森県側では、八戸湾に注ぐ馬淵川下流地域から陸上岳北方地域にかけ、上位から蒼前平段丘、白銀平段丘、高館段丘、湊段丘、根城段丘、田面木段丘（1956、1961、1966、1972）などに大別されている。一方、種市町を含む岩手県北部海岸地域では、九戸段丘、白前段丘、種市段丘、玉川段丘（1956、1969、1983、2001）に大別されている。第1表は以上に述べた従来の段丘区分に従った対比表である。

馬淵川下流域	種市岳北側地域	岩手県北部太平洋側地域
蒼前平段丘（180～260）	蒼前平段丘（90～160）	九戸段丘（120～260）
天狗岱段丘（60～）	白銀平段丘（60～100）	白前段丘（60～100）
高館段丘（30～50）	湊段丘（20～55）	種市段丘（15～40）
根城段丘（20～30）		
田面木段丘（河岸段丘）		玉川段丘
尻内段丘（河岸段丘）		

第1表 段丘区分対照表（数値は海岸近接地での面高度＝標高、単位はm）

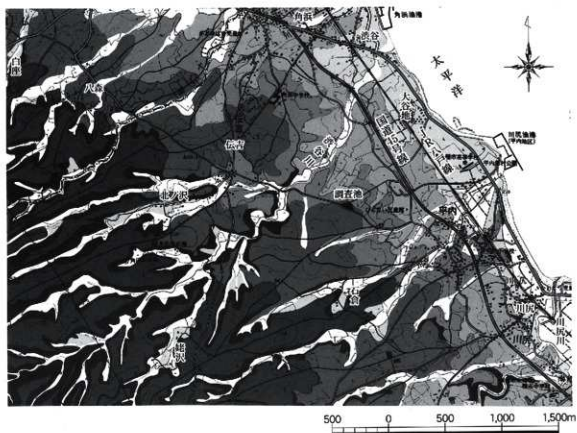
九戸段丘は、九戸火山灰層を載せる高度120m以上の段丘で、種市町を含む周辺地域では種市岳・久慈平岳の周囲に広く分布する。段丘を刻む谷と谷とが近接している地域では、開析されて平坦面を失い、尾根状の稜線部から両側の谷底に向けた急斜面が大部分を占めるが、谷の間が開く地域では側方に急斜面をもつ、緩やかに起伏する平頂丘陵地となっている。

白前段丘は、天狗岱火山灰層以上を載せる馬淵川下流域の天狗岱段丘にあたる高度60m以上の段丘である。八戸西方の天狗岱段丘では平坦面がよく残されているが、種市岳北側の青森県陸上町から種市町周辺にかけては、比較的広い平坦地や緩やかに起伏する丘陵地となっているところが多い。

種市段丘は、研究者によって高度や定義が多様である。田山利三郎（1956による）は高度10～20m程度

の平坦面を高位沖積段丘としている。その後の諸研究は、いずれも低位の洪積段丘とし、種市火山灰層ないし相当火山灰層以上を載せる段丘と定義し、記述された海岸近接地域の高度をまとめれば15~40mの範囲内に納まっている。

玉川段丘は、八戸火山灰層・南部浮石層を載せる段丘とされ、小・中河川の谷壁にみられる低位の河岸段丘も含まれる。



地形区分図凡例



第2図 遺跡周辺の地形区分図

第2図は遺跡周辺、東西5km、南北3.5kmの範囲の地形区分図である。区分するにあたって、従来の段丘区分にいくつかの問題点が認められたので、次のことを考慮した。

従来、種市段丘面の海岸部での面高度（海拔…以下同様）は、第1表のように15～40（または35）mとされてきたが、今回の調査では種市段丘とされている部分内の高度20～25m付近に、一部急崖となる傾斜遷移面が存在している。また、種市段丘の上位の段丘は高度60m以上の白前段丘とされてきたが、高度40～60mの間にもう一つの段丘面が認められた。さらに最近の報告では、I～IVの4段の河岸段丘が区別されているが、河岸段丘とするよりも海水準変化に直接的に連動して形成された海岸段丘として捉えたい地形面が多い。今後、段丘堆積物などの地質調査と周辺地域の地形調査をしなければ結論を得られないが、本報告では、地形面が一連の部分は高度値の多少の違いにはこだわらずに同一面として扱い、第2表のように、大谷地段丘（仮称）、種市段丘、川尻段丘（仮称）の3段に分けた。それぞれの段丘面高度は、10～20m、25～50m、40～60m（一部は70m）である。

従来の区分	玉川段丘	種市段丘		白前段丘	九戸段丘
筆者試案	大谷地段丘	種市段丘	川尻段丘	白前段丘	九戸段丘
高度(m±)	10～20	25～50	40～70	60～100	120～260

第2表 遺跡周辺の段丘（面）区分

第2図は、以上に述べたことを基に作成した地形区分図である。

発掘調査された主要部分は、南から北北東へ傾斜する緩斜面上にある。面区分上は、東西の小谷に挟まれて扇状に開くような白前段丘から川尻段丘への、やや傾斜の大きい遷移面を途中におき、西側は種市段丘のせり上がり部分にまたがっている。地形区分図には表現されていないが、遺跡内で東西に隣接する川尻段丘と種市段丘の間には、南の白前段丘末端部から北北東に向かう小谷があり、この小谷底には八戸火山灰の水成堆積が認められた（第3図の④地点、3. 遺跡の土層序の項参照）。

2. 周辺の地質と近域の岩石分布

鎌田らの地質図（1991）によれば、基礎の地質は種市町のほぼ全域にわたって、現J R八戸線の東側を除いて花崗閃緑岩で占められている。花崗閃緑岩体は、種市岳や久慈平岳の中腹から山頂にかけては新鮮な岩肌を見せるが、多くの場所では風化が著しく、比較的厚いマサとなっている。

現J R八戸線と海岸線の間は、青森県境に接する角浜から渋谷川河口付近までがデイサイト～流紋岩質溶岩および火山砕岩で占められ、それより有家川河口付近までは、ほぼ白亜紀の種市層で占められている。種市層は、おもに礫岩・凝灰岩を伴う砂岩である。

基礎岩の上には、第四紀の礫層・砂礫層・砂層・泥層などの段丘堆積物が載り、段丘堆積物は褐色火山灰層（いわゆるローム）とその上の黒色土類（腐植土…いわゆるクロボク）で覆われている。

褐色火山灰層は、九戸火山灰層、種市火山灰層、八戸火山灰層の3層に区分されている。九戸火山灰層は

それぞれ特徴のある数枚の粘土化した軽石層を挟む、よく締まった暗褐色火山灰層で、種市町での厚さが2～3m、噴出源は不明とされているが、南方と西方に厚くなり、挟まれる軽石層の数も増すことから、おそらく岩手山・八幡平火山群がおもな噴出源と推定される。浸食により削剥されているところが多いため、露頭に乏しく詳細は不明であるが、九戸段丘を覆う火山灰層である。

種市火山灰層は種市段丘と、より古い高位の段丘を覆う褐色粘土質火山灰層（いわゆるローム）である。種市町での厚さは2～4mで、それぞれに特徴に富む数枚の粘土化軽石層を挟んでいる。この火山灰層は北方と西方に厚さを増すことや、挟在する軽石層、その他の特徴から、八戸付近の高館火山灰層に連続する火山灰層である。そのほとんどは十和田火山に由来するものであるが、高館火山灰層最下部に挟まれる粘土状の白色火山灰（白タフ）の噴出源は北海道の洞爺カルデラで、8～10万年前の降下と考えられている。十和田火山東麓地域では、高館火山灰層の中位以上に、軽石流凝灰岩～火山灰流凝灰岩相をもつ数枚の火砕流堆積物が挟まれ、そのうち最上部の軽石流は大不動浮石流凝灰岩（25000～30000余年前、最近は大不動火砕流、大不動軽石流などという）と呼ばれ、岩手県内では二戸市～一戸町に分布し、筆者らは東方の軽米町高家付近で確認している。種市町域での確認の例はないが、今後の調査で旧石器時代後期の遺跡とも関連して、見出される可能性がある。遺跡で確認された種市火山灰層上部は、これと前後して形成されたものと考えてよい。

八戸火山灰層は、十和田湖東方地域では風化の進んでいない降下相の灰白色火山灰層、その上の火砕流堆積物（軽石流～火山灰流凝灰岩）の2相で構成され、火砕流の上部、あるいは火砕流を欠くところでは互層部の上部が、明黄褐色～明黄褐色風化火山灰層に遷移する。降下相の八戸火山灰層は、実際には火山灰層と軽石層との互層で、標式地の八戸市周辺から五戸町周辺にかけては6層に分けられ、大池・七崎・松山（1970、以下大池らという）は、下から上に、I～VIの記番号を与えている。I・III・V層が火山灰層、II・IV・VI層が軽石層にあたる。標式地の八戸周辺ではふつう、I層が40～50cmでもっとも厚く、IV・V層が25～35cm、VI層は20～30cm、III層は数～10cmで、II層は数cm以内でもっとも薄い。I層は種市町中心部付近までは同様の厚さを保つが、各層とも南北に薄くなり、分布の周辺域では区別がつきがなくなる。種市町周辺ではII・III層は尖滅し、代わりにI層中部に数cm以内の軽石層が明瞭に認められる。IV層は軽石列程度となり、V・VI層が数～10cm程度となっている。

上部の火砕流は八戸浮石流凝灰岩（最近は八戸火砕流、八戸軽石流などという）と呼ばれ、十和田湖周縁部では、より古い火砕流とともに周辺の火山体の中腹までをも埋め立てて透ヶ平などのほぼ平坦な高原を形成しているが、東麓部では削剥し残された部分が火砕流段丘（シラス段丘）となり、二戸市から野辺地町にかけての国道4号線に沿う地域周辺から東方では、河川の谷壁にへばりつく状態で残されているにすぎない。八戸浮石流凝灰岩（東方では火山灰相に漸移）の分布の東限は、筆者が現在までに確認できたかぎりでは、八戸付近では八戸市白銀町、県境部では青森県南郷村畑内遺跡および軽米町高家付近で、種市町では確認していない。

降下相の八戸火山灰層・八戸浮石流凝灰岩の絶対年代は、最近までの多数の¹⁴C年代測定例から12000～13000年前と思われる（第3表参照）。

岩手県北から青森県東南部にかけて分布する八戸火山灰層の上に乗る黒色土類（地表直下）の下部や、間に挟まれる降下火山砕屑物層は、下位から上に、二ノ倉火山灰層、南部浮石層（現在は文部省の学術用語集で軽石のみが用いられているので、以下南部軽石層という）、中振浮石層（以下中振軽石層という）、十和田b降下火山灰層、十和田a降下火山灰層、苫小牧火山灰層に分けられている。苫小牧火山灰層を除けば、す

べて十和田湖(以下、場合によって、カルデラ壁を含めて十和田火山あるいは十和田カルデラという)が噴出源である。そのうち、平内Ⅱ遺跡で確認できたものは南部軽石層、中堰軽石層で、二ノ倉火山灰層起源の火山灰(風塵)を含むと思われる土層(④地点)も現認できた。

二ノ倉火山灰層は、新期十和田火山火砕活動(およそ12000~8500年前の期間内)に関連して噴出を続けた火山砕屑物の降下によって形成された。十和田湖の東方約30km以内ではスコリア(暗色の軽石様多孔質噴出物)、ラビリ(角張った火山礫)、黒色~褐色火山灰(砂)などの地層をつくるが、遠隔地では赤味がかった風成の粘土質褐色火山灰層(いわゆるローム層)として断片的に分布するにすぎない。赤味がかった火山灰層と埋藏遺物との関係例としては、八戸市鴨平(2)遺跡(1982)の橙褐色火山灰層(二ノ倉)からは爪型文土器が、八戸市柳引遺跡(1999)では二ノ倉火山灰介在上層直下の土層から縄文時代草創期の土器(多縄文等)が出土している。

南部軽石層は、新期十和田火山の破壊的爆発によって噴出した未膠結の軽石密集層で、十和田湖を起点に東方に長軸をもった長楕円状の地域に分布し、太平洋岸にまで達している。十和田湖直近地域では軽石の粒度は10~20cm(最大30cm以上)と粗く、厚さも10m前後(最大30m以上)と厚いが、東方にしいにその厚さと粒度を減じ、果境に近い青森県の名久井岳周辺で厚さが1m程度、粒度数cm(最大10cm)程度となり、種市町周辺地域では、粒度数mm~1cm程度の軽石の集まる厚さ10cm前後の地層となっている。成層した南部軽石層分布域の外側周縁地域では、黒色土の中に、一般に分布域に近いところほど密にその軽石粒が混入している。軽石層内の試料による¹⁴C絶対年代測定例は、筆者の知るかぎり、十和田湖南東岸に接するカルデラ壁で採取した樹幹から得られた8600±250年B.P.(第3表参照)の例だけである。この膨大な軽石を噴出した爆発によって、新期火山体の頂部が破壊され、中腹以下が中山・御倉半島となり、2つの半島に囲まれた深さ300m余の中湖が誕生した。十和田湖が二重カルデラと言われる由縁である。

中堰軽石層は、十和田湖中湖と御倉半島先端部との間で起こった激しい爆発によって放出された軽石密集層で、十和田湖を起点に東方地域に広く分布するが、南部軽石層と違って南北方向への広がりも大きい。十和田湖東岸のカルデラ壁では、軽石の粒度は数~20cmで、厚さも5~10mと大きいが、南部軽石層同様、周辺にしいにその厚さと粒度を減じ、青森県十和田市~五戸町域では厚さ50~20cm、粒度は砂粒大~数mmとなり、八戸市~二戸市以東は厚さが20~10cm程度に減少し、砂粒大(火山灰)となる。山麓地域でアワズナと呼ばれる由縁である。分布域の外側では、一般的には黒色土層中に砂粒大の軽石塊として断続ないし点在するようになり、さらに外周域では黒色土との混合層に遷移してゆく。降下年代は当初、五戸町国道4号線バイパス上の遺跡調査時の所見と、上下の土層の多数の絶対年代測定例(第3表参照)とから、縄文時代中期とされたが、各地での発掘調査が進むにつれて縄文時代前期へとさかのぼり、現在ではおよそ5500年前とされるようになった(1993, 1997)。土器型式との関係では、岩手県境に隣接する青森県旭内遺跡では中堰軽石層(遠隔地では、粒度上は火山灰)の直上に無数の円筒下層a式土器群が、十和田市寺上遺跡(未公表)や十和田湖町中里(2)遺跡(2000)では直下に円筒下層式土器出現直前の型式土器を含む土器群が出土している。

十和田b降下火山灰層は、十和田湖東方地域に分布し、十和田湖直近地域では整い灰白色軽石粒の密集する軽石層と、その上の暗色(暗青灰色~暗褐色)火山灰層(火山砂)から構成されている。火山灰部は、十和田湖直近地域では、厚さ10cm前後のよく締まった硬い地層であるが、20~30km以東では火山灰部は腐植土に紛れて認めがたくなる。軽石の成層部も途絶えがちになって、軽石粒は腐植土層中に散らばってしまうが、およそ50km離れた青森県南郷村で成層した状態(厚さ1~5cm)の木層が確認された例(1981)

がある。降下時期はほぼ2000年前で、すべての縄文時代晩期遺構・遺物の包含層を覆い、最近では遺物との関係から弥生時代前期の降下と考えられている。

十和田a降下火山灰層は、十和田湖周辺地域をはじめ、岩手県北～青森県を中心に、東北北部の広い範囲に分布する。十和田湖の南側直近地域では、軽石層とその上の火山灰層・火砕流堆積物で構成されているが、降下軽石層と火砕流堆積物（米代川沿いの土石流＝シラス洪水堆積物を除く）の分布は比較的狭く、降下火山灰の広がりが大きい。数十km以上離れた地域では、流れ込みを別とすれば厚さ数cm前後の灰白色～淡褐色を帯びた砂混じりシルト状火山灰層として、遺構の覆土や小規模な埋没凹地に、レンズ状に残されていることが多い。降下時期は915年（1984）とされている。

苫小牧火山灰層は、東北地方と北海道に広く分布する。流れ込みを別とすれば厚さ数cm前後の灰白色～淡褐色を帯びたシルト～粘土状火山灰層で、遺構の覆土や小規模な埋没凹地に、レンズ状に残され、朝鮮半島西部の白頭山＝ペクト山に由来する火山灰（1981）である。

以上のほか、南部軽石層と中環軽石層の間に、分布は狭いながら十和田湖の南東方に長楕円状に延びる軽石層（隴山淨石層、1996・松山ら）がある。十和田湖南東の速ヶ平周辺で厚さ50cm程度の崩れやすい灰白色の軽石層であるが、南東方に尖滅し、浄法寺町中心部付近で土層中に、中環軽石に似た粒径1cm以内の黄色軽石粒として散らばる程度となる。

第3表は、石器時代末期頃から縄文時代を経て現在にいたるまでの火山灰層や軽石層あるいは火砕流堆積物の噴出・降下の年代（含、八戸火山灰層）をまとめたものである。おもに遺跡や地質に関連して測定された¹⁴C年代測定値を基に、大池・中川（1979）がまとめた原因に、その後の知見によって筆者が修正・加筆を加えたものである。原因作成者や筆者が関わった遺跡のほとんどが青森県内のため、引用が青森県内に偏っていることを了承されたい。

遺跡から出土する石器類の石材の多くは、周辺地域の谷底への崩落岩塊・礫や、段丘礫あるいは海岸の崩落岩塊や海浜の礫と考えられるので、周辺域の岩石分布に触れておく。

前述のように、種市町の基盤は大部分が花崗閃緑岩などの深成岩で占められ、その広がりは、隣接する久慈市北部、大野村の東半部、県境を越えた階上町にまで及んでいる。大部分はその表層部が風化してマサになっているが、新鮮な露頭は種市岳や久慈平岳山体、あるいは河谷壁などの急斜面部などに見られ、また河谷底や海岸などの礫として大量に存在する。深成岩体の周囲には広く緑色塩基性凝灰岩・砂岩・頁岩・粘板岩・チャートなどの堆積岩類や、輝緑岩・安山岩・デイサイト（いわゆる石英安山岩など）・流紋岩・玄武岩などの火成岩類、千枚岩・変成度の低い片岩・ホルンフェルスなどの変成岩類が、河谷壁や河谷底、あるいは海岸に屹立する岩壁などに直接露出しているほか、河谷底や海岸の岸壁下に巨礫や大礫として堆積している。遺跡から出土している礫石器を含む石器類の材質のほとんどは、石鏝・石錘・石匙・石笄などの剥片石器類や石斧を除けば、数十km内に産する岩石である。なお、分布の広い石灰岩を材質とする石器類は他遺跡に例はあるが、分布に比べれば出土数ははるかに少ない。

剥片石器類などに用いられる、いわゆる珪質頁岩とされる原石（珪化度の高い岩石や団塊）の産地は、そのほとんどが脊梁山脈や日本海側地域と思われる（しばしばサリテスなどの化石が含まれている）。石斧の原石のうち、緻密な緑色凝灰岩（青森県内では、緑色細粒凝灰岩としている。緻密には凝灰岩起源の熱変成岩）の多くは、脊梁山脈や日本海側地域のいわゆるグリーンタフで、一部は太平洋側の緻密な緑色塩基性凝灰岩である。石斧には、そのほかにも遠来のものがかかり多い。

編年	火山灰	¹⁴ C年代(年B.P.)・遺跡など
(年B.P.)		
1000	土師器時代 ● 毛馬内浮石流/十和田a	1280±90 (平山・市川, 1956) A.D. 915 (町田・新井・森脇, 1984) 胡枝船遺跡…平安時代中～末期 徳野遺跡…A.D. 810 (松岡, 1965) 1180±80 (大池・庄子, 1974)
2000	弥生時代 ● 十和田b降下火山灰	2200±100 (大池・庄子, 1974) 新郷村蝦蟇遺跡…晩期土器 (全形式)
3000	縄文時代 晩期	
4000	後期	● 五戸町西張遺跡…十間内1式 大湯ストーンサークル…3680±130 (渡辺, 1956)
5000	中期 ● 三内丸山遺跡	3920 (松井ほか, 1969) 泉山遺跡Ⅱ層…4440±140 (青森県教委, 1976) 十和田市甲戸遺跡 (上層a下層d, 十和田市教委, 1983) 畑内遺跡 (下層a, 青森県教委, 1995) 畑内遺跡…5600± (青森県教委, 1997)
6000	前期 ● 中瀬浮石	4200±100 (十和田源研究グループ, 1969) 6500±170 (松井ほか, 1969) 十和田市寺上遺跡…5600±70 (十和田市教委, M.S) 頼家自然貝層…5280±100 (大池・松山, 1972)
7000	早期	● 三戸町館遺跡
8000		
9000	期 ● 南部浮石	8600±250 (大池・高橋, 1970) 三戸町寺ノ沢遺跡…出戸下層式
10000	代 ● 二ノ倉火山灰 (十和田新期火山)	三戸町赤坂遺跡 八戸市鴨平遺跡…爪型文土器 (青森県教委, 1982) 八戸市郷引遺跡…多縄文土器 (青森県教委, 1997)
11000	先 ● 階上町蝦蟇遺跡…無文土器	
12000	縄文時代 晩	
13000	● 八戸火山灰層	五戸町ホド沢…12700±260 (大池, 1964) 畑内遺跡…13470±200 (青森県教委, 1993) 埋没村…13770±510 (大池・庄子, 1977) 長香久保遺跡 (野辺地町)…旧石器時代末石器等出土
	● 大不動浮石流	23140±1020 (大池, 1978) 25560±1340 (大池, 1978) 31900< (佐藤, 1969), 33000< (岡, 1969)

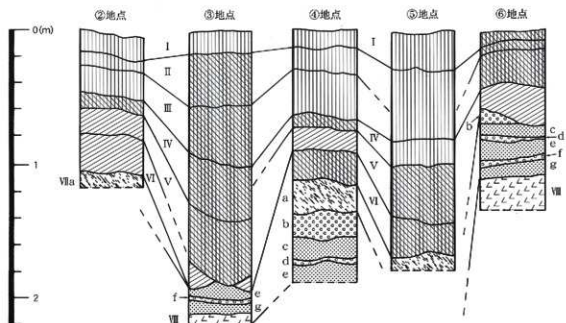
大池・中川 (1979) 原図を改訂 (~2000, 再改訂2002, 松山)

第3表 十和田火山の更新世末～新世火山灰編年

3. 遺跡の土層序

発掘調査によって確認された土層を、基底の種市火山灰層まで8層に分けた。そのうち、Ⅰ層からⅥ層までが黒色土など腐食土層（一括して黒色土層類とする）で、Ⅶ層が八戸火山灰層とその再堆積層、Ⅷ層が種市火山灰層（高嶺火山灰層）である。

土色の記載は、農水省農林水産技術会議事務局監修の「新版 標準土色帖」に添えられた（財）日本色彩研究所監修の色票と対比して近似のものを選んだもので、「～」は個別の色の变化範囲を示している。厚さは6地点での土層を対比して一括した变化の範囲を「～」で記載した。第3図は、①地点を除く5地点の土層の柱状図を対比したものである。



注・a～gはⅦa～Ⅶgまでを示す

土層対比と図凡例



第3図 土層対比図

I層は地表直下の表土である。草本類の根毛の多い、厚さ10～26cmの黒色(10YR1.7/1～2/1)～黒褐色(10YR3/1)土層で、粘性に乏しく砂(ほとんど細粒軽石粒=火山灰)混じりながらやや締まっている。ところにより粒径が数mm以内の堅い灰白色～浅黄褐色～黄褐色(10YR8/1～8/6)軽石粒が散らばっている。この軽石粒は、十和田b火山灰に由来するものである。

II層は、厚さ2～56cmの黒色(10YR1.7/1～2/1)～黒褐色(10YR2/2)土層で、粘性に乏しく砂まじりながらやや締まっている。多くの場所で、太陽光を反射して輝く微細な白色鉱物粒(おそらく火山灰起源の鉱物粒)が目立ち、ほぼ全域で十和田b降下火山灰起源の、砂粒大から粒径2～4mmの堅い灰白色(10YR8/2)～浅黄褐色(10YR8/3～8/4)軽石粒が散らばり、ところにより起源不明の褐色(10YR4/4)～にぶい黄褐色(10YR5/4)～黄褐色(10YR5/6)軽石粒が点在する。小谷を埋めるように土層が堆積している①地点では、側方の八戸火山灰層から崩落した、厚さ1～2.5cm×長さ0.5～2.5cmの明黄褐色(10YR7/6)～浅黄褐色(10YR8/4)～黄褐色(10YR8/6)火山灰塊が土層中に断続していた。

III層は、厚さ20～38cmの黒色(10YR1.7/1～2/1)～黒褐色(10YR2/2～3/1～3/2)土層で、多量の粗砂～細礫大(粒径2～4mm)の軽石粒が下半部に特に多量に混入し、混入率の大きいところは粘性に乏しく、比較的小さいところはやや粘性に富む。この軽石粒は中環軽石に由来するもので、①地点では、周囲が黒褐色(10YR2/2～3/2)で中心部が黄褐色(10YR8/6)を帯びた、径1.5×3～14×25cmの軽石砂塊となって断続していた。④地点でも、腐植土混じりながら砂粒大の軽石が密集した黒褐色(10YR2/2～3/2)土塊が認められた。そのほか、ところによりまばらに、ところにより多量に、粒径が砂粒大から10mm程度(最大16～20mm)のにぶい黄褐色(10YR5/4)～にぶい黄褐色(10YR6/4)～黄褐色(10YR8/6～8/8、7.5YR8/8)～褐色(7.5YR6/8)軽石粒が混入している。なお①地点では、同地点のII層同様に断続する崩落火山灰塊が散在している。

IV層は、⑥地点を除いて、厚さ4～40cmの黒色(10YR2/1)～黒褐色(10YR2/2～2/3)土層で、軽石層起源の砂粒大の火山灰を多量に含んで砂質であるが、粘性に富み、よく締まった粘土質土層となっておりが多い。多くの場所で、砂粒大から粒径2～4mmの黄褐色(10YR8/6)～明黄褐色(10YR7/6)軽石粒や、にぶい黄褐色(10YR5/3)軽石粒が散らばる。①地点同様に、小谷の凹地を崩れ込んだ土層が埋める③地点では、南部軽石層に由来すると見られる砂粒大から粒径2～18mmのにぶい黄褐色(10YR7/4)～浅黄褐色(10YR8/4)～明黄褐色(10YR7/6)軽石粒が、ところによりやや多量に、ところにより密に混入し、砂粒大の灰白色～浅黄褐色(10YR8/2～8/4)～明黄褐色(10YR7/6)～褐色(7.5YR7/6)軽石粒も目立っている。

小高い平頂部を占める⑥地点では、IV層から下位のVI層までが渾然一体となった土層が下位の八戸火山灰層を切るように載っている。厚さ14～28cmの暗褐色(10YR3/3)が主で、明黄褐色(10YR6/6)～黄褐色(10YR7/8)火山灰塊が断続する。暗褐色土層には、ところによりまばらに、ところにより密に、砂粒大から粒径2～25mmの浅黄褐色(10YR8/4)～黄褐色(10YR8/6～7.5YR8/8)軽石粒が混入している。断続する火山灰塊は径3×6～18×23cmで、黒色土の混じらない火山灰塊や黒色土が混じり込んだ土塊、あるいは軽石密集部と互層するものなどがあり、軽石・火山灰は八戸火山灰層に由来するものと思われる。

V層は、後記する③地点と前述の⑥地点を除き、厚さ6～58cmの黒褐色(10YR2/2～3/1～3/2)～暗褐色(10YR3/3)土層で、軽石層起源の砂粒大火山灰を含んでやや砂質であるが、粘性に富みよく締まった粘土質の土層である。V層には多くの場所で、厚さ数cm、長さ数cm～20cmあるいはそれ以上の、崩れやすい南部軽石層～軽石塊ないしはその黒色土混入塊が断続している。軽石層～軽石塊～混入塊は、砂粒大

から粒径2～10mm程度の浅黄褐色(10YR8/3～8/4)～にぶい黄褐色(10YR6/4)～黄褐色(10YR8/6～8/8～7.5YR7/8)～明黄褐色(10YR7/6～6/6)軽石粒が密集したもので、橙色(7.5YR6/8)～黄色(5YR6/8)軽石粒を含むことがある。南部軽石層～軽石塊～軽石混入土塊を含まない土層にも、南部軽石層に由来する砂粒大から粒径2～6mmのにぶい黄褐色(10YR6/4)～明黄褐色(10YR6/6)～黄褐色(10YR8/6～8/8～7/6)軽石粒が、ところによりまばらに、ところにより多量に混入している。一部に八戸火山灰起源と思われる締まって硬い径数cmの明黄褐色(10YR7/6～6/8)～黄褐色(10YR7/8)軽石密集塊を含むところがある。

③地点では、小谷の凹部を埋めるように覆うIV層と、上部が削剥されて谷状の溝になっている八戸火山灰層(VII層)との間に、小谷の側壁を底に向かって斜めに這い降り、あるいは崩れ落ちたとみられる土層・土塊の混合層(下部)と、その上の凹部に東から斜め下る土層(上部)があり、これを一括して他地点のV・VI層に対比した。上部は厚さ0～40cmのやや締まった粘性に富む黒褐色(10YR3/2)土層で、粒径2～15mm(最大20mm)の黄褐色(10YR5/6)～明黄褐色(10YR6/6)～明褐色(7.5YR5/6)軽石粒が密集(1.5×2～7×9cm)塊となったり、ところによりまばらに、ところにより多量に混入している。これらは南部軽石層相当の軽石粒である。下部の東から下る土層は厚さ0～27cmの暗褐色(10YR3/3)土層で、砂粒大から粒径2～10mm(最大20mm)の黄褐色(10YR8/6)～にぶい黄褐色(10YR6/4)軽石粒がやや多量に混入し、一部に南部軽石層相当の黄褐色(10YR8/6～7/8)軽石粒の密集塊(径9～15cm)が認められた。これらの軽石も南部軽石層に由来する。西側の下部は緩やかに谷壁を下る土層と、その先端部と凹部の底に挟まれた2つの土塊である。谷壁を下る土層は、上部8cm以内が暗褐色(10YR3/3)土に漸移する厚さ24～44cmの褐色(10YR4/4)土層で、粒径2～18mmの浅黄褐色(10YR8/3～8/4)～明黄褐色(10YR7/6)～黄褐色(7.5YR8/8)軽石粒が、ところによりややまばらに、ところにより多量に混入している。これらの軽石粒は八戸火山灰層の軽石部に由来するものと思われるが、確認できなかった。下部の土塊のうち、凹部の底に接する土塊は、断面が底辺28cm、高さ32cmの直角三角形の暗褐色(10YR3/3)土塊で、粘性に富みよく締まっていて粒径2～6mmの浅黄褐色(10YR8/4)～にぶい黄褐色(10YR7/4)軽石粒が多量に混入し、底部に最大層厚5cmのレンズ状軽石密集塊がある。この土塊と谷壁を下る土層に挟まれた土塊は、断面が横8～10cm、縦12～22cmの台形型の軽石密集塊で、砂粒大から粒径2～5mmの黄褐色(7.5YR8/8)～橙色(7.5YR6/8)軽石粒が密集し、部分的に黒褐色(10YR2/2)～暗褐色(10YR3/3)土が隙間を埋めていて、もろく崩れやすい。

VI層は、厚さ10～40cmで粘性に富みよく締まった土層である。土色は、一般的には黒褐色(10YR2/3)～暗褐色(10YR3/3)であるが、下位層の状態や厚さ、周囲の微地形や微環境などによって異なるところがある。黒色土層の薄い平頂部の①地点では褐色(10YR5/1～4/1)を帯びるが、二ノ倉火山灰層からの風塵が局部的に吹き溜まり状に堆積して腐植土と混合したと思われる④地点では、上から下へより赤味がかって黒褐色(7.5YR3/2)から黒褐色(5YR2/2)へと変化する。VI層中には砂粒大から粒径2～8mmの浅黄褐色(10YR8/3～8/4)～黄褐色(10YR8/6)明黄褐色(10YR7/6～6/6)軽石粒がところにより塊状～帯状の密集部をつくり、あるいはまばらに、または多量に混入している。

VII層は、八戸火山灰層ないしはその直後の再堆積層を一括したものである。最上部は褐色系色の風化火山灰層で、②地点、④地点、⑤地点に見られ、他地点では欠如していた。これをVII a層とする。その下は、火山灰層と薄い軽石層との互層で、これを上からVII b～VII g層の6層に分けた。軽石層には、横方向に火山灰層と交互に断続するところがある。

Ⅶa層は、厚さ20～46cmで褐色(10YR4/4～4/6)、あるいはにぶい黄褐色(10YR6/4)～明褐色(10YR6/6)～明黄褐色(Hue 2.5Y)粘土質風化火山灰層で、よく締まっている。ところにより下部数cm程度内に、粒径2～10mmの灰白色(10YR8/2)～黄褐色(10YR8/6)軽石粒がやや多量に混入している。または下半部が、粒径砂粒大～5mmの灰白色(10YR8/1～8/2)、あるいは黄褐色(10YR5/8)軽石粒密集層となり下位の軽石層に漸移する。Ⅶa層は、谷跡の①地点と③地点では欠如し、⑤地点ではこの部位までが確認できた。

Ⅶb層は、③地点(③地点のⅦb～Ⅶd層は、第3図の柱状図では埋没谷の底部をとったため欠けているが、側方の埋没谷斜面でⅦc層の上に連続する)、④地点、⑥地点で確認されている。厚さが0～24cmで、砂粒大から粒径2～12mmの明黄褐色(10YR6/8～7/6)～黄褐色(10YR7/8～8/6～7.5YR8/8～7/8)軽石粒の密集層である。浅黄褐色(10YR8/4)、灰オリーブ色(Hue 5Y5/2)軽石も散らばり、間隙を暗色火山灰や砂粒大の灰色(Hue 5Y5/1)火山岩片が充填している。ほとんど膠結していないので崩れやすい。大池ら(1970)のⅦ層に相当する。

Ⅶc層は、厚さ4～18cmの黄褐色(10YR5/8)、あるいはにぶい黄色(Hue 2.5Y6/3～6/4)火山灰層でよく締まり硬い。砂粒大から粒径2～10mmの黄褐色(10YR5/8)、あるいは灰白色(10YR8/2)～黄褐色(10YR8/6)軽石粒や、粗砂大の灰白色(10YR7/1)、褐灰色(10YR5/1～4/1)火山岩片が散在するところがあり、④地点では下底部に砂粒大から粒径2～10mmのにぶい黄色(Hue 2.5Y6/3)軽石粒が混じった橙色(7.5YR6/6～6/8)軽石密集層があった。大池ら(1970)のⅦ層に相当すると思われる。

Ⅶd層は、④地点を除き、厚さ0～6cm(一部で下方に向けて16cmに膨らむ)の砂粒大から粒径2～20mmの黄褐色(10YR8/6～8/8)～明黄褐色(10YR7/6～6/8)～橙色(7.5YR7/6)軽石粒が密集した軽石層で、粗砂大の灰白色(10YR7/1)、あるいは褐灰色(10YR5/1～4/1)火山岩片が混合している。⑥地点では、橙色(7.5YR6/6)火山灰層と交互に断続していた。小谷跡の④地点では、厚さ16～30cmと厚く、他と同様の粒度のにぶい黄色(Hue 2.5Y6/3～6/4)が密集する軽石層となっていて、中程に厚さ2～4cmの堅い明赤褐色(5YR5/6)部を主とする赤色酸化鉄帯があり、沢底の水中堆積とその後の地下水の影響を物語る。大池ら(1970)のⅣ層に相当するものと思われる。

Ⅶe層は、厚さ2～18cmの明黄褐色(10YR6/6～7/6)粘土質火山灰層で締まって硬い。⑥地点では、粒径2～5mmの灰白色(10YR8/1)、あるいは黄褐色(10YR8/6～8/8)軽石粒やⅦd層に含まれると同様の岩片が散在している。④地点では、上下に曲がりくねる厚さ1～3cmの赤色酸化鉄帯が続いていた。大池ら(1970)のⅠ層上半部にあたるものと思われる。

Ⅶf層は、厚さ0～7cmの軽石層で砂粒大から粒径2～20mmの灰白色(10YR8/1～8/2)、あるいは黄褐色(10YR8/6)～明黄褐色(10YR7/6～6/6)軽石粒が密集し、一部では火山灰との混合層となっている。よく締まって硬い。八戸周辺のⅠ層(大池ら)中位に含まれる軽石粒密集帯に連続するものと思われる。⑤地点ではこの部位までが確認されている。

③地点と⑥地点で確認されたⅦg層は、厚さ4～17cmの浅黄褐色(10YR8/3～8/4)～明黄褐色(10YR6/8)火山灰層で、粘土質で粘性に富み、軟らかい。⑥地点では、中位に粒径2～22mmの灰白色(10YR8/2)ないし黄褐色(10YR8/6～7/8～7.5YR7/8)～(7.5YR6/8)橙色軽石粒が多量に集中し、一部で上位が火山灰層、下位が軽石層の2層に分かれている。大池ら(1970)のⅠ層下半部にあたるものと思われる。

なお①地点では、黒色土層群の下に、沢底に堆積したにぶい黄褐色(10YR7/3)軽石層(厚さ20cm以

上)がある。八戸火山灰層にあたる砂粒大から粒径2～10mm程度の軽石粒の密集層で、上位に砂・粘土混じりシルト状火山灰がレンズ状に載るところもある。注目すべきは、ここから、Ⅱ層下半部～Ⅳ層までの土層を垂直～斜めに切り、2～3条に分岐して横に這う脈状の厚さ0.2～3cmの灰白色火山灰があることで、地震に伴う噴砂の痕跡とみられる。

Ⅳ層は、種市火山灰層の最上部にあたる厚さ20cm以上の橙色(7.5YR6/6)粘土質火山灰層で、上限から1～8cmまでは、灰褐色～にぶい褐色～にぶい橙色(7.5YR6/2～6/4)を呈する風化帯となっている。

<引用・参考文献>

- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之、1966、馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰第四紀研究5、29～35頁
- 大池昭二・七崎 修・松山 力、1970、八戸平原地区地質調査報告書、東北農政局、17～23頁
- 小貫義男、1969、北上山地地質誌、168～169頁
- 鎌田耕太郎・秦光男・久保和也・坂本亨、1991、北部北上山地の地質Ⅰ、20万分の1地質図地質調査所
- 栗村知弘、2000、中里遺跡(2)遺跡発掘調査報告書、十和田湖町教育委員会
- 杉山了二、1983、ふるさと読本(地質編)、種市町教育委員会
- 東北地方第四紀研究グループ、1969、東北地方における第四紀海水準変化、日本の第四系、地研専報15地学団体研究会、53～59頁
- 中川久夫、1972、八戸平原地質調査報告書、10～11頁
- 中川久夫、1961、本邦太平洋沿岸地方における海水準静的変化と第四紀編年、東北大学地質古生物学教室邦文報告54、1～61頁
- 七崎 修、1999、藤引遺跡、青森県埋蔵文化財調査報告書、第263集、8～9頁・11頁
- 半沢正四郎ほか、1956、岩手縣地質説明書Ⅱ、岩手縣、172頁
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広、1981、日本海を渡ってきたテフラ、科学、51、9、岩波書店
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広、1984、放射性分析による広域テフラの同定—北日本の広域テフラ、武蔵工大原子炉等共同利用報告書、9
- 松山 力・大池昭二、1986、十和田火山噴出物と火山活動、十和田科学博物館、4号
- 松山 力、1981、馬場湖遺跡、青森県埋蔵文化財調査報告書、第70集、7～13頁
- 松山 力、1982、鴨平(2)遺跡、青森県埋蔵文化財調査報告書、第73集、13頁
- 松山 力、1988、白鹿遺跡報告書、青森県陸上町教育委員会、14～18頁
- 松山 力、1993、畑内遺跡Ⅰ、青森県埋蔵文化財調査報告書、第161集、6～14頁
- 松山 力・木村鑑次郎、1997、畑内遺跡Ⅳ、青森県埋蔵文化財調査報告書、第211集、189～192頁
- 丸山浩治、2001、ゴッソー遺跡発掘調査報告書、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、5～13頁

IV. 種市町内の遺跡

種市町内に存在する遺跡は、2003年現在岩手県遺跡台帳によると69遺跡が登録されている。未だ本格的に町内遺跡詳細分布調査を行っておらず、未発見の遺跡が多くあると思われ、本調査事例も極めて少なく町内の遺跡については不明な部分が多い。

旧石器時代の登録は未だないが、「角川日本地名大辞典3」によると、旧石器遺物出土遺跡として鉄山遺跡（大谷鉄山か？）、有家遺跡（上のマッカ遺跡か？）が紹介されている。和座川上流の河岸段丘上に立地する鉄山遺跡から石刃・剥片・敲石、また海岸段丘上に立地する有家遺跡から石斧・剥片が出土し、いずれも約2500年前の高館火山灰層最上部から発見されたところから、遺跡の名称は現在登録のものとは異なり遺物は存在せず詳細は不明である。

縄文時代の遺跡数は41遺跡を数える。草創期の遺跡の確認はないが、平内Ⅱ遺跡より約9キロ離れた青森県三戸郡陸上町平内地区にある滝端遺跡からは爪形文土器等が出土している。また、階上町に隣接する南郷村黄栗遺跡、種市町に隣接する軽米町馬場野Ⅱ遺跡でも草創期の土器が出土しているため、町内からも出土する可能性があるといえる。早期の遺跡には、ゴッソー遺跡（20）、大平遺跡（32）、大宮Ⅰ遺跡（48）、大宮Ⅱ遺跡（47）等がある。大宮遺跡は、昭和36年に岩手大学草間俊一氏によりA・B・Cの3地区に分けて調査された遺跡である。A・B遺跡からは貝殻文土器が出土しており、特にB遺跡からは胴部に貝殻条痕、口唇部に貝殻線文の土器が出土している。草間氏は、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器であり、発見されたことは多大な成果であると報告している。また、石鍾も出土しており、早期のものであるとすると岩手県では最古のものとなる。ゴッソー遺跡では、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる平成6年度の調査で、遺構には伴わないが日計型押型文土器、魚骨回転文土器、貝殻文土器等が出土している。前期の遺跡として千敷平遺跡（4）、平内遺跡（5）、ゴッソー遺跡（20）、上のマッカ遺跡（43）、藤好沢遺跡（52）等がある。ゴッソー遺跡もやはり昭和36年に草間氏により調査された遺跡で、縄文時代前期を中心に縄文時代早期の土器、弥生土器、土師器を採集したとの報告がある。また、同遺跡は(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる平成6年度、同12年度の発掘調査及び試掘調査を通じて縄文時代早期～晩期の遺物が出土しているが、前期初頭の土器の出土量が多く、特に平成6年度の調査で出土したコンパス文土器や押型文土器は岩手県では初めての出土であると考えられる。上のマッカ遺跡は草間氏の昭和36年の調査で、貝塚が存在する可能性を指摘している。中期の遺跡として伝吉遺跡（2）、蝦夷森遺跡（3）、千敷平遺跡（4）、平内遺跡（5）、上のマッカ遺跡（43）等がある。特に千敷平遺跡は石棒が多数出土したため開拓時に配石の様なものが見られており、集落があった可能性もある。後期の遺跡としてトチの木遺跡（8）、竹の子遺跡（21）、大久保遺跡（22）、上岡谷遺跡（31）、長坂遺跡（39）、上のマッカ遺跡（43）、石倉遺跡（56）等がある。上岡谷遺跡は出土遺物から平内Ⅱ遺跡と同時期と考えられる。晩期の遺跡には竹の子遺跡（21）、大平遺跡（32）、戸類家遺跡（61）、ニサクドウ遺跡（58）、田ノ沢遺跡（63）等がある。特に竹の子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和36年度岩手県遺跡台帳作成調査では、戦時中開墾の際多数の土器が出土し、現在は植林されており包含層は良好で重要な遺跡であるとの報告がある。種市町歴史民俗資料館収蔵資料のほとんどはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和32年に慶応義塾大学江坂輝彌氏により調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土している。この時の土偶は現在慶応義塾大学考古学研究室に収蔵されている。なお、昭和7年には小田島裕郎氏が同町を訪れており、田の沢遺跡、八木貝塚の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。貝塚遺跡としてホックリ貝塚

(33)、八木貝塚(37)、小子内貝塚(40)、黒マッカ貝塚(41)がある。ホッキリ貝塚からは岩手県で初めてといわれた縄文時代の製塩土器が出土している。また縄文時代製塩土器は、ゴッソー遺跡の平成12年度調査でコンテナ約1箱分出土している。歴史民俗資料館には竹の子遺跡出土の縄文時代の製塩土器が多量に収蔵されており、出土地不明の遺物にも含まれている。青森県境角浜地区に所在する海岸の二十一平遺跡(69)では古代(平安時代)の製塩土器が出土している。ホッキリ貝塚からも土師器片が出土しており古代にも製塩していた可能性がある。町内には製塩土器を伴う遺跡が多く存在することが予想される。

弥生時代の遺跡は荒巻遺跡(9)、大平遺跡(32)、大宮Ⅰ遺跡(48)・Ⅱ遺跡(47)等がある。大平遺跡からはアメリカ方式石鏝が出土している。草間氏の昭和36年の調査で、大宮Ⅰ遺跡から弥生土器片が採取され岩泉町の赤穴遺跡と類似するとの報告がある。ゴッソー遺跡からも数点出土しており、その他出土地不明の弥生土器片や大型壺等が歴史民俗資料館収蔵資料として数点収蔵されている。

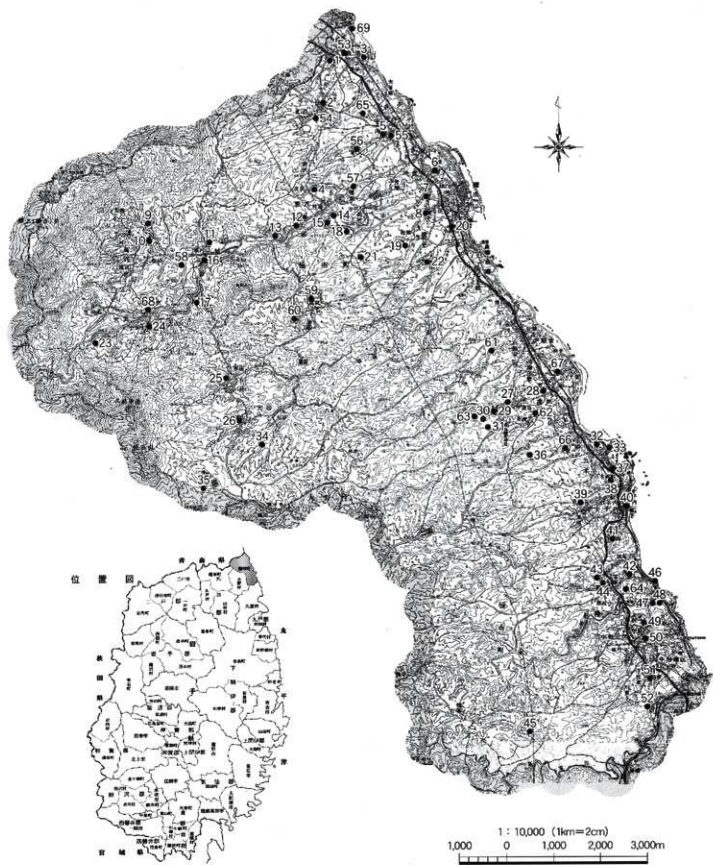
古墳時代以降～平安時代の遺跡として横手遺跡(7)、城内遺跡(11)、大久保遺跡(22)、黒マッカ遺跡(41)、ニサクドウ遺跡(58)等がある。古墳時代の遺跡登録はないが、縄文時代の遺跡登録である物山遺跡からは古墳時代の石製模造品が出土している。城内遺跡からは8世紀初頭と考えられる土師器の長胴甕、球胴甕、甕、坏が出土している。また、ニサクドウ遺跡では土製支脚、底部糸切の土師器坏が出土しており9世紀台に属する可能性がある。なお、角浜地区で須恵器の長頸瓶が出土したとの報告もある。

中世の遺跡は、城跡踏が昭和59年に分布調査されており現在15遺跡が登録されているが、多くは詳細が不明である。城内地区は古代～近世にかけて種市町の中心地であった。また、この地区にある種市城は種市氏の居城で、平城と山城の二つからなっており両城館の関連は不明であるが、天正20年(1592)の「諸城破却書」には破却の対象となっている。平城跡は現在でも馬場屋敷、的場、神楽屋敷等当時の名残と思われる地名が存在する。

近世の遺跡で主なものに有家御陣屋跡(46)がある。これは、海岸防備の政策をとる徳川幕府の命により、八戸藩が寛政5年(1793)領内6カ所に役人詰め所である陣屋と大砲設置の台場を構築した中の1つである。八戸線(現JR八戸線)工事により一部破壊されているが、現在も盛土遺構の一部が残存しており八戸藩御目付所日記には文政8年(1825)の記録が残っている。その他鉄山跡4遺跡、金山跡2遺跡が登録されている。元野田村教育長田村栄一郎氏による、たたら遺跡の踏査によると12の鉄山跡、密銭場跡、鍛冶場跡等15カ所の調査結果報告があり、製鉄関連の遺跡も多数存在すると思われる。また、町内から金の採取に関する古文書が発見され、沢尻、雪畑、小手沢、ノソウケの4カ所に採取場があったと文書が伝えている。

<引用・参考文献>

- 草間俊一 1963 『種市の歴史』 種市町役場
角川書店 1985 『角川日本地名大辞典3 岩手県』
田村栄一郎 1987 『みちのくの砂鉄いまいずこ』
種市町教育委員会 1995 『種市のむかし』
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
岩手県教育委員会 1986 『岩手県中世城館分布調査報告書』 岩手県文化財調査報告書第82集



第4図 町内の遺跡

No.	遺跡コード	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	3P97-1086	内丸	築造地	縄文	縄文土器	田ノ倉	
2	3P97-2066	跡倉	瓦葺	縄文中期	縄文土器(中期)、石斧、石鏃、石箭、射鏃	跡倉	
3	3P38-1688	鹿嶋遺跡(アヰメ遺)	瓦葺	縄文中期-晩期	縄文土器(中・晩期)、フレーク	真田田	
4	3P47-2334	千手平	瓦葺	縄文前期-中期	縄文土器(前期)、石鏃、フレーク	千手平	
5	3P48-0170	平野	瓦葺	縄文前期-中期	縄文土器(前・中期)、フレーク	西野平	
6	3P48-1270	鹿野	瓦葺	中世	瓦	高瀬川・森川尻	509年調査
7	3P48-2234	新子	築造地	縄文前期-古代	縄文土器(前期)、土器片	新子	
8	3P48-2282	トナラ木	築造地	縄文前期-晩期	縄文土器(後・晩期)	新子	
9	3P56-0200	鹿島	瓦葺	縄文中期-晩期	縄文土器(中期)、弥生土器	新子	
10	3P56-0270	八幡野遺跡(八幡入平野)	縄文	中世	瓦、埴輪	新子	509年調査、1113年八幡野遺跡より土器発見
11	3P57-0086	陸内	瓦葺	古代	土器片、土器片、土器片	大井	
12	3P57-0229	五郎野遺跡(鹿嶋町)	瓦葺	中世	瓦	鹿野	509年調査
13	3P57-0264	松野野遺跡	瓦葺	中世	瓦、埴輪、瓦片	鹿野	509年調査
14	3P57-0269	小形野遺跡(白)	伊奈野遺跡	江戸	石瓦	鹿野	1113年小形野遺跡より土器発見
15	3P57-0217	土橋	瓦葺	中世	埴輪	鹿野	509年調査
16	3P57-1025	地倉倉庫(伊賀)	瓦葺	中世	瓦	鹿野-鹿内	509年調査
17	3P57-2033	鹿嶋山(古野)	瓦葺	中世	瓦	鹿野	
18	3P58-0534	小形野遺跡	瓦葺	中世	瓦葺	鹿野	鹿野遺跡・ヤマト
19	3P58-0149	鹿嶋山	瓦葺	中世	二重遺構、中世	鹿野	509年調査
20	3P58-0341	ゴッペ	築造地	縄文後期-晩期、弥生	縄文土器、弥生土器、土器片、弥生土器	小形田	
21	3P58-1005	舟ノ子	築造地	縄文前期-後期、晩期	縄文土器(前・後・晩期)、弥生土器	小形田	
22	3P58-1203	大井	築造地	縄文前期-後期、晩期、古代	縄文土器(前・後・晩期)、石斧、土器片	大井	
23	3P58-0158	ノソウケ遺跡	伊奈野遺跡	江戸	石瓦	下尾	
24	3P58-0200	小形野遺跡(クサツツ)	瓦葺	中世	瓦	下尾	509年調査
25	3P57-1131	知徳野	瓦葺	中世	瓦	新鹿	509年調査
26	3P57-1148	大井山	瓦葺	江戸	瓦葺	新鹿	
27	3P58-1054	西の倉	築造地	縄文後期	縄文土器(後期)、石鏃、半布	鹿野(新鹿野、鹿野)	
28	3P58-1157	野戸	瓦葺	中世	瓦、半布	鹿野	509年調査
29	3P58-2613	西の倉	瓦葺	中世	瓦、土器	鹿野	509年調査
30	3P59-2020	西郷の井	築造地	縄文後期	縄文土器(後期)、石鏃、土器	新鹿	
31	3P59-2041	1尾野	築造地	縄文後期	縄文土器(後期)	新鹿	
32	3P59-2380	大井	築造地	縄文後期-晩期、弥生	縄文土器(後・晩期)、弥生土器	八木・小形田	
33	3P59-2353	カツリノ井	瓦葺	縄文後期-古代	縄文土器、弥生土器、石斧、土器片	八木	
34	3P77-0201	鹿嶋山	瓦葺	江戸	瓦葺	カツリ	
35	3P77-1027	鹿嶋山	瓦葺	江戸	瓦葺	鹿嶋	
36	3P79-0121	小形の山	瓦葺	江戸	瓦葺	小形田	
37	3P79-0302	八木山	瓦葺	縄文後期	縄文土器(後期)、弥生土器、瓦片	八木	
38	3P79-0373	山	瓦葺	縄文中期-後期	縄文土器(中・後期)	八木	
39	3P79-1243	新鹿	築造地	縄文後期-晩期	縄文土器(後・晩期)	小形野(新鹿)	
40	3P79-1258	小形の山	瓦葺	縄文	弥生土器、瓦片、ミルクリ、イシダタ	小形野(新鹿)	
41	3P79-2344	鹿嶋山(新鹿)	瓦葺	縄文後期-古代	縄文土器(後期)、土器片、石器	新鹿(新鹿野)	
42	3P89-0209	鹿嶋山	瓦葺	縄文	縄文土器(後期)、石片	新鹿(新鹿野)	
43	3P89-0349	鹿嶋山	瓦葺	縄文前期-中期、後期	縄文土器(前・中・後期)、石片、フレーク	新鹿(新鹿野)	
44	3P89-0533	新鹿	瓦葺	中世	瓦(鹿嶋山産)、埴輪	新鹿(新鹿野)	509年調査
45	3P89-1153	新鹿山	瓦葺	江戸	瓦	新鹿(新鹿野)	
46	3P89-0088	新鹿野遺跡	瓦葺	江戸	土器	新鹿(新鹿野)	509年調査
47	3P89-1008	大井	瓦葺	縄文後期-弥生	縄文土器(後期)、弥生土器	新鹿(新鹿野)	
48	3P89-1008	大井	瓦葺	縄文後期-前期-後期-弥生	縄文土器(後・前・後期)、石鏃、弥生土器	新鹿(新鹿野)	
49	3P89-1003	新鹿	瓦葺	縄文	縄文土器	新鹿(新鹿野)	
50	3P89-2004	中野野(鹿野-鹿嶋山)	瓦葺	中世	瓦(鹿嶋山産)、埴輪	中野野(新鹿野、鹿野)	509年調査
51	3P89-0005	新鹿	瓦葺	縄文	縄文土器	中野野(新鹿野、大井)	
52	3P89-0005	新鹿	瓦葺	縄文後期-晩期	縄文土器(後・晩期)、石片	中野野(新鹿野)	
53	3P39-1072	鹿嶋山	瓦葺	縄文	縄文土器(中期)、埴輪(石片)	丸山	
54	3P47-0303	北ノ井	瓦葺	縄文	縄文土器(中期)	北ノ井	
55	3P48-0194	中野野	瓦葺	縄文	縄文土器(中期)、石器	新鹿(新鹿野)	
56	3P48-1023	石倉	瓦葺	縄文後期	縄文土器(後期)、土器片	新鹿(新鹿野)	
57	3P48-2023	鹿嶋山	瓦葺	縄文	石器	新鹿	
58	3P58-1258	ニサツトウ	瓦葺	縄文後期-古代	縄文土器(後期)、土器片、土器片	新鹿	
59	3P57-2023	鹿嶋山	瓦葺	縄文	縄文土器	鹿嶋	
60	3P57-2025	鹿嶋山	瓦葺	縄文	縄文土器(中・後期)	鹿嶋-鹿嶋	
61	3P59-0643	戸野野	瓦葺	縄文後期	縄文土器(後期)、土器	新鹿(新鹿野、鹿嶋)	
62	3P59-2113	内丸	瓦葺	縄文	縄文土器	新鹿(新鹿野)	
63	3P58-2337	新ノ井	瓦葺	縄文後期	縄文土器(後期)	新鹿	
64	3P59-0274	内丸	瓦葺	縄文	縄文土器	新鹿(新鹿野、新鹿)	
65	3P48-0017	中野野	瓦葺	縄文中期-後期	縄文土器(前・中期)、石鏃、新鹿山	新鹿(新鹿野)	
66	3P79-0119	大井	瓦葺	縄文	縄文土器(後期)	小形田	
67	3P89-1103	鹿嶋山	瓦葺	縄文	縄文土器(後期)	鹿嶋	
68	3P59-2200	大井	瓦葺	縄文	縄文土器	大井(新鹿)	
69	3P38-0008	二十平遺跡	牛車遺跡	平安	埴輪土器(平安)	鹿嶋山	

第4表 町内の遺跡一覧

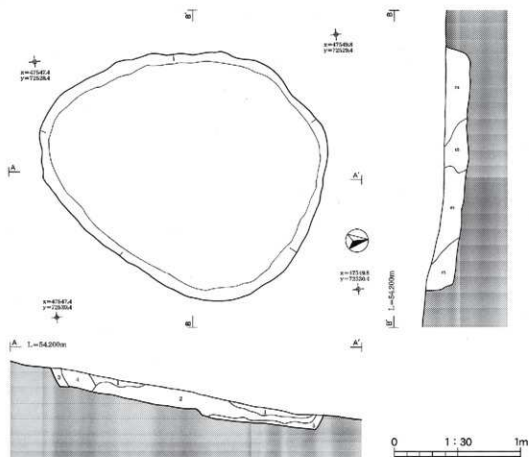
V. 検出された遺構と遺物

調査の結果、竪穴状遺構1基、土坑34基、溝状土坑（陥し穴状遺構）45基、焼土遺構1基が検出された。

1. 竪穴状遺構

竪穴状遺構（第6図、写真図版6）

本調査区から1基検出された。B9グリットほぼ中央に位置する。平面形は円形で、規模は北東～南西228cm、北西～南東216cm、検出面からの深さは全体的にはほぼ均一で壁高10cmを測る。底部は土層対比図⑥第IV層を掘削している。底面は平坦で良く締まるが、ピット・柱穴類、炉跡・焼土等の痕跡は認められなかった。底部面積は約2.83㎡である。壁面は直気味に立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、5層に分層される。黒褐色土を主体に壁際には暗褐色土、黄褐色土が堆積し、各層とも明黄褐色土極小～中粒を微量～少量含む。遺構内からの出土遺物はなく、時期、用途ともに不明である。



第6図 竪穴状遺構

2. 土坑

SK01土坑 (第7図、写真図版6)

B10グリット東側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径112cm×短径102cm、底部で長径90cm×短径78cm、深さは最深部で26cmを測る。底部は土層対比図⑥第IV層を掘削し、底面は平坦である。底部から壁はほぼ直に立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、7層に分層される。黒褐色土を主体に暗褐色土、黒色土が堆積し、各層とも明黄褐色土極小～中粒を微量～少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK02土坑 (第7図、写真図版6)

SK01の南側、同じくB10グリット上に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径148cm×短径132cm、底部で長径28cm×短径12cm、深さは最深部で134cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面はほぼ平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁はほぼ直に立ち上がり、底部より30cm位の所から外傾して開口部へ至る。断面形は漏斗状を呈し、開口部に対して底部は狭く窄まる。覆土は人為的な堆積の可能性がある。19層に分層され、黒褐色土と黒色土を主体にほとんどの層で明黄褐色土、黄褐色土の極小～中粒を微量～少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK03土坑 (第7図、写真図版6)

C5グリットやや南西側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径118cm×短径108cm、底部で長径58cm×短径44cm、深さは最深部で112cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面はほぼ平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は長径、短径とも外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。断面形は逆台形状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、6層に分層される。黒褐色土と黒色土を主体にほとんどの層で明黄褐色土、黄褐色土の極小～中粒を微量～少量含む。また、第1～4層は炭化物極小粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK04土坑 (第7図、写真図版7)

C5グリット南側に位置する。平面形は不整形円で、規模は開口部で長径130cm×短径126cm、底部で長径90cm×短径64cm、深さは最深部で62cmを測る。底部は平坦ではなく、壁の立ち上がりが判然としない部分があり全体的に掘り方が不明瞭である。覆土は自然堆積の様相とは考えられない。黒褐色土に八戸火山灰を多量に含み、粘性、締まりともなく、攪乱的な様相を示し、短時間に埋まったことが想定される。遺構内からの出土遺物はなく、倒木根跡の可能性が考えられる。

SK05土坑 (第7図、写真図版7)

C6グリット南西側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径122cm×短径118cm、底部で長径62cm×短径52cm、深さは最深部で102cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面まで止まり、底面は平坦で、副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至り、断面形は逆台形状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、7層に分層される。黒褐色土を主体に黒色土が堆積し、各層とも黄褐色土極小～小粒を少量含む。また、第1層は炭化物粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK06土坑 (第8図、写真図版7)

C7グリット北西側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径64cm×短径54cm、底部で長径36cm×短径30cm、深さは最深部で26cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層付近まで掘削されており、底面は平坦である。底部から壁は外傾気味に立ち上がり開口部へ至り、掘り方はしっかりしている。覆土は自然堆積の様相を示し、5層に分層される。黒褐色土を主体に褐色土、暗褐色土が堆積し、各層とも黄褐色土極小粒を微量～少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK07土坑 (第8図、写真図版7)

C9グリット中央付近に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径72cm×短径68cm、底部で長径68cm×短径34cm、深さは中央部で30cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面はほぼ平坦である。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至り、掘り方はしっかりしている。覆土は自然堆積の様相を示し、3層に分層される。黒褐色土を基調に黒色土が堆積し、各層とも明黄褐色土極小粒を微量～少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK08土坑 (第8図、写真図版8)

C10グリット北東隅に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径109cm×短径104cm、底部で長径90cm×短径88cm、深さは最深部で20cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面で止まり、底面は平坦である。底部から壁は若干外傾して立ち上がり開口部へ至り、掘り方はしっかりしている。覆土は自然堆積と見られる。2層に分層され、黒褐色土を基調に明黄褐色土極小～小粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK09土坑 (第8図、写真図版8)

D5グリット中央やや北側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径156cm×短径122cm、底部で長径82cm×短径62cm、深さは最深部で148cmを測る。底部は高嶺火山灰層上位層を基とし、底面は平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は直気味に立ち上がり開口部付近で若干外傾し、断面形は逆台形より円筒形に近い形状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、8層に分層される。黒褐色土と暗褐色土を主体に下位層には黄褐色土、褐色土が堆積する。上位層には黄褐色土極小粒を微量～少量含む。また、第1層は炭化物極小粒を含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK10土坑 (第8図、写真図版8)

D6グリット南東隅側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径116cm×短径114cm、底部で長径76cm×短径60cm、深さは最深部で56cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面で止まり、底面は平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至り、断面形は逆台形を呈する。覆土は人為的な堆積の可能性がある。10層に分層され、黒褐色土を基調に黒色土が堆積し、ほとんどの層で明黄褐色土、黄褐色土の極小～中粒を微量～少量含む。また、第10層は炭化物粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK11土坑 (第8図、写真図版8)

D11グリット南側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径56cm×短径52cm、底部で長径40cm×短径36cm、深さは最深部で24cmを測る。底部は若干凹凸が見られ、壁の立ち上がりも不明瞭で掘り方もしかりしていない。覆土は締まりのない褐色土が基調で、自然堆積とは考えられない。遺構内からの出土遺物はない。

SK12土坑 (第8図、写真図版9)

D12グリット北西隅に位置する。平面形は楕円形で、規模は開口部で長軸162cm×短軸114cm、底部で長軸54cm×短軸22cm、深さは最深部で98cmを測る。底部から壁の長軸側は外傾気味に立ち上がり、底部より40cm位の所から大きく開口する。短軸側は開口部から底部へ狭く窄まり、断面形は漏斗状に近い形状を呈する。底面は平坦であるが、長軸22cm×短軸14cm、深さ20cmの副穴を持ち、開口部から副穴までの深さは115cmを測る。底部から副穴まで八戸火山灰層を掘削している。覆土は自然堆積の様相を示し、11層に分層される。黒褐色土と黒色土を主体に暗褐色土、褐色土、黄褐色土が堆積する。ほとんどの層で明黄褐色土極小～大粒を微量～少量含む。副穴部の覆土は黒色土である。遺構内からの出土遺物はない。

SK13土坑 (第9図、写真図版9)

E4グリット、E5グリット境に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径107cm×短径92cm、底部で長径86cm×短径76cm、深さは中央部で26cmを測る。底部は土層対比図⑥第VI層上位面とし、底面は平坦である。底部から壁は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、3層に分層される。黒褐色土を基調に黄褐色土極小粒をやや多めに含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK14土坑 (第9図、写真図版9)

F5グリット北東隅側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径160cm×短径132cm、底部で長径28cm×短径22cm、深さは最深部で128cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面はほぼ平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁の長径側は外傾気味に立ち上がり、底部より60cm位の所からさらに外傾して開口部へ至り、短径側は外傾して立ち上がり開口部へ至る。長径断面形は漏斗状を呈し、開口部に対して底部は狭く窄まる。覆土は自然堆積の様相を示し、8層に分層される。中～上位層は明黄褐色土極小粒を少量含む黒褐色土、下位層は褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

SK15土坑 (第9図、写真図版9)

F11グリット中央に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径110cm×短径94cm、底部で長径96cm×短径52cm、深さは最深部で66cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面まで止まり、底面はほぼ平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は外傾気味に立ち上がり開口部へ至り、断面形は逆台形を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、5層に分層される。黒褐色土を主体に各層とも明黄褐色土極小～中粒を微量～少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

S K 16土坑 (第9図、写真図版10)

F11グリット南東隅に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径138cm×短径116cm、底部で長径90cm×短径72cm、深さは最深部で44cmを測る。底部は八戸火山灰層上位面まで止まり、底面はほぼ平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至り、断面形は逆台形を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、6層に分層される。黒褐色土を主体に各層とも明黄褐色土極小～中粒を微量に含む。また、第2層は炭化物小粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

S K 17土坑 (第9図、写真図版10)

B10グリット中央やや西側に位置する。平面形は楕円形で、底面は長楕円形を呈する。規模は開口部で長軸364cm×短軸223cm、底部で長軸267cm×短軸92cm、深さは最深部で176cmを測る。底部は八戸火山灰層を掘り抜き、高船山灰層上位面まで達する。底面は平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至り、断面形は逆台形を呈する。TP06と重複し、TP06を切るプランで検出され、新旧関係はS K 17が新しい。覆土は自然堆積の様相を示し、12層に分層される。黒褐色土を主体に黒色土、黄褐色土、黄橙色土、明黄褐色土が堆積する。下位層には見られないが、中～上位層には明黄褐色土、黄褐色土の極小～極大粒、準大ブロックが多量に見られ、混入率が50%を超える層もある。遺構内からの出土遺物はない。

S K 18土坑 (第10図、写真図版11)

B11グリット北西隅に位置する。平面形は楕円形で、規模は開口部で長軸79cm×短軸52cm、底部で長軸44cm×短軸32cm、深さは中央部で24cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面はほぼ平坦である。底部から壁は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、4層に分層される。黒褐色土を基調に各層とも明黄褐色土極小～中粒を少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

S K 19土坑 (第10図、写真図版11)

B11グリット北側、C11グリット境付近に位置する。平面形は長楕円形で、規模は開口部で長軸142cm×短軸54cm、底部で長軸120cm×短軸38cm、深さは最深部で34cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面は凹凸が見られる。壁の立ち上がりは南西壁側は明瞭であるのに対し、北東壁側はやや不明瞭である。全体的に掘り方はしっかりしている。覆土は自然堆積と考えられる。4層に分層され、黒褐色土を基調にほとんどの層で明黄褐色土極小～大粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

S K 20土坑 (第10図、写真図版11)

C5グリット北側、D5グリット境付近に位置する。平面形は細長楕円形で、規模は開口部で長軸176cm×短軸58cm、底部で長軸130cm×短軸44cm、深さは中央部で50cmを測る。底部は八戸火山灰層上位面まで止まり、底面はほぼ平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、5層に分層される。黒褐色土を主体に下位層は褐色土が堆積し、各層とも黄褐色土極小粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK21土坑 (第10図、写真図版12)

C9グリットほぼ中央に位置する。平面形は楕円形で、規模は開口部で長軸108cm×短軸54cm、底部で長軸70cm×短軸31cm、深さは中央部で21cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面であり、底面は平坦である。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、3層に分層される。黒褐色土を基調に各層とも明黄褐色土極小～小粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK22土坑 (第10図、写真図版12)

SK21の北東側、C9グリット側に位置する。平面形は不整楕円形で、規模は開口部で長軸102cm×短軸55cm、底部で長軸75cm×短軸30cm、深さは最深部で23cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面は凹凸が見られる。壁の立ち上がりは不明瞭で、しっかりと掘り方ではない。覆土は明らかに自然堆積ではなく、攪乱的な様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

SK23土坑 (第10図、写真図版12)

C11グリット中央やや西側に位置する。平面形は長楕円形で、規模は開口部で長軸192cm×短軸78cm、底部で長軸132cm×短軸40cm、深さは最深部で50cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面は若干凹凸が見られる。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。覆土は人為的な堆積の可能性がある。6層に分層され、黒褐色土を基調に各層とも明黄褐色土極小～中粒を微量～少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK24土坑 (第10図、写真図版13)

D4グリット東側に位置する。平面形は長楕円形で、規模は開口部で長軸212cm×短軸73cm、底部で長軸150cm×短軸44cm、深さは最深部で69cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面であり、底面はほぼ平坦であるが西側に傾斜する。副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁は長軸側は外傾して立ち上がり、短軸側は直気味に立ち上がり外傾気味に開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、11層に分層される。黒褐色土を基調にほとんどの層で明黄褐色土極小～小粒を微量に含む、やや多めに含む層もある。また、第4層は炭化物極小粒を含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK25土坑 (第10図、写真図版13)

D5グリット北側に位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は開口部で長軸139cm×短軸54cm、底部で長軸120cm×短軸47cm、深さは中央部で20cmを測る。底部は土層対比図②第V層で、底面はほぼ平坦である。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり、短軸側はほぼ直に立ち上がり開口部へ至る。覆土は人為的な堆積の可能性がある。黒褐色土を基調とし4層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

SK26土坑 (第11図、写真図版13)

D6グリット南東隅、D7グリット境付近に位置する。平面形は長楕円形で、規模は開口部で長軸130cm×短軸54cm、底部で長軸94cm×短軸32cm、深さは最深部で28cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面であり、底面は平坦である。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。覆土は人為的な堆積の可能性がある。4層に分層され、黒褐色土を基調に各層とも明黄褐色土極小粒を微量～少量、もし

くは多量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK27土坑 (第11図、写真図版14)

D11グリット南西隅に位置する。平面形は長楕円形で、規模は開口部で長軸132cm×短軸63cm、底部で長軸112cm×短軸52cm、深さは中央部で12cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面は若干凹凸が見られる。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。覆土は人為的な堆積の可能性がある。黒色土と黒褐色土2層に分層され、黒色土層には明黄褐色土、黄褐色土の極小～小粒を少量含む、黒褐色土層には明黄褐色土極小～小粒を少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK28土坑 (第11図、写真図版14)

D11グリットほぼ中央に位置する。平面形は細長楕円形でSK29と重複する。SK28がSK29を切るプランで検出され、新旧関係はSK28が新しい。規模は開口部で長軸推定151cm×短軸44cm、底部で長軸推定138cm×短軸26cm、深さは最深部で22cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面で止まり、底面はほぼ平坦である。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、3層に分層される。黒色土、黒褐色土、暗褐色土が堆積し、各層とも明黄褐色土極小～小粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK29土坑 (第11図、写真図版14)

SK28に切られるプランで検出された。平面形は残存で楕円形の様相を呈し、SK28との完掘状況は1つの細長楕円形の様相を呈する。規模は残存値で開口部で長軸90cm×短軸60cm、底部が長軸80cm×短軸42cm、深さは最深部で16cmを測る。底部は八戸火山灰層上位面で止まり、底面はほぼ平坦である。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積と考えられる。2層に分層され、黒褐色土を基調に明黄褐色土極小粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK30土坑 (第11図、写真図版15)

D11グリット、D12グリット境中央に位置する。平面形は長楕円形で、規模は開口部で長軸136cm×短軸64cm、底部で長軸100cm×短軸36cm、深さは最深部で31cmを測る。底部は八戸火山灰層上位面で止まり、底面はほぼ平坦である。底部から壁は外傾して開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、2層に分層される。黒褐色土を基調に明黄褐色土極小～小粒や黄褐色土極小～小粒を少量含む。遺構内からの出土遺物はない。

SK31土坑 (第11図、写真図版15)

D4、E4グリット境上東側に位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は開口部で長軸186cm×短軸65cm、底部で長軸176cm×短軸50cm、深さは最深部で52cmを測る。底部は八戸火山灰層上位面で止まり、底面は平坦で副穴等掘削の痕跡は確認されなかった。底部から壁の長軸側は外傾気味に、短軸側はほぼ直に立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、10層に分層される。中～上位層は黒褐色土を主体に暗褐色土、黒色土が堆積し、下位層は褐色土が堆積する。ほとんどの層で明黄褐色土極小粒を微量～少量含む。また、第2、8、9層は炭化物極小粒を含む。遺構内からの出土遺物はない。

S K 32土坑 (第11図、写真図版15)

E11グリット中央やや北東側に位置する。平面形は楕円形で、規模は開口部で長軸154cm×短軸84cm、底部で長軸82cm×短軸34cm、深さは最深部で44cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面で止まり、底面は凹凸が見られる。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積とは認め難く、人為的な堆積の可能性がある。5層に分層され、黒褐色土を主体に暗褐色土、黒色土が堆積する。ほとんどの層で明黄褐色土極小～極大粒を微量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

S K 33土坑 (第11図、写真図版16)

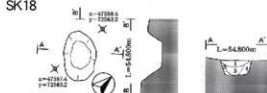
E12グリット南西側、E11グリット境付近に位置する。平面形は長楕円形で、規模は開口部で長軸233cm×短軸96cm、底部で長軸165cm×短軸60cm、深さは最深部で43cmを測る。底部の掘削は八戸火山灰層上位面で止まり、底面は平坦ではない。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。南壁側の一部は立ち上がりが不明瞭であるが、全体的に掘り方はしっかりしている。覆土は自然堆積の様相であると考えられる。3層に分層され、黒褐色土を基調に各層とも明黄褐色土極小～極大粒を少量含む。また、第1層には炭化物小～大粒を多量に含む。遺構内からの出土遺物はない。

S K 34土坑 (第11図、写真図版16)

G12グリットほぼ中央に位置する。平面形は楕円形で、規模は開口部で長軸141cm×短軸82cm、底部で長軸70cm×短軸27cm、深さは中央部で52cmを測る。底部は八戸火山灰層上位層を掘削し、底面は平坦である。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。覆土は自然堆積の様相を示し、5層に分層される。中～上位層は黒褐色土、暗褐色土、黒色土が堆積し、ほとんどの層で明黄褐色土極小～極大粒を微量に含む。下位層は褐色土が堆積する。

遺構内から縄文土器片が第1層より4点、第2層より2点、第3層より3点出土しているが、ほとんどが小破片で摩滅している。その内1点を図示した。No.1は深鉢の副部片である(第22図、写真図版33)。

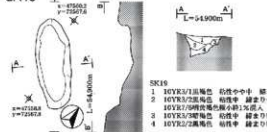
SK18



SK18

- 1 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR4/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入
- 3 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり中 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 4 10YR7/2黄褐色 粘粒中 粘まり中 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 5 10YR7/2黄褐色 粘粒中 粘まり中 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入

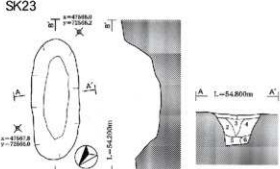
SK19



SK19

- 1 10YR2/3黄褐色 粘粒中+中 粘まり中+中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中+中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 3 10YR3/2黄褐色 粘粒中 粘まり中 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 4 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入

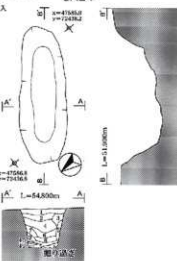
SK23



SK23

- 1 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR2/2黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 2 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR5/6黄褐色 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 3 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR5/6黄褐色 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 4 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR5/6黄褐色 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 5 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR5/6黄褐色 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 6 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR5/6黄褐色 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入

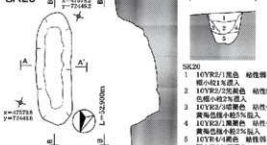
SK24



SK24

- 1 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘粒中+中 粘まり中+中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 3 10YR2/2黄褐色 粘粒中+中 粘まり中+中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 4 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 5 10YR2/3黄褐色 粘粒中+中 粘まり中+中程度 草根入
- 6 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 7 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 8 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 9 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 10 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入

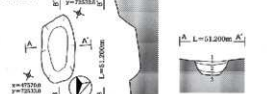
SK20



SK20

- 1 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり中 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 3 10YR2/2黄褐色 粘粒中+中 粘まり中+中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 4 10YR2/3黄褐色 粘粒中+中 粘まり中+中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 5 10YR4/6黄褐色 粘粒中 粘まり中 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入

SK21



SK21

- 1 10YR2/3黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR5/6黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 3 10YR4/6黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入

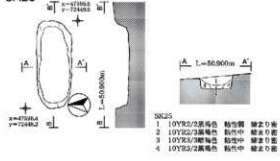
SK22



SK22

- 1 10YR4/6黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入
- 3 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入
- 4 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり極めて重 草根入 10YR7/2黄褐色粘粒中粘り少量混入

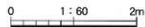
SK25

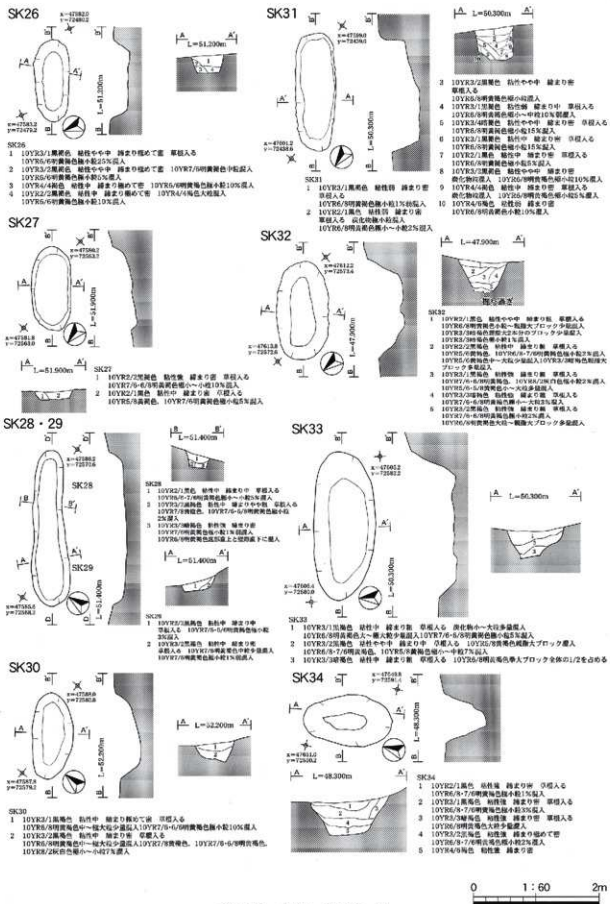


SK25

- 1 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入
- 3 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入
- 4 10YR2/2黄褐色 粘粒中 粘まり中程度 草根入

第10图 土坑 SK18~25





第11図 土坑 SK26~34

3. 溝状土坑

TP01溝状土坑 (第12図、写真図版17)

B8グリットほぼ中央に位置し、等高線に対して斜交する。TP02とほぼ同軸で、平行する様に位置している。平面形は細長楕円形で、長軸方向は $N-80^{\circ}-W$ を示す。規模は開口部で長軸360cm×短軸38cm、底部で長軸332cm×短軸8cm、深さは最深部で110cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦である。底部から壁の長軸側はほぼ直に立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直気味に立ち上がり上部付近で外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし6層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP02溝状土坑 (第12図、写真図版17)

TP01の南側、B8グリットほぼ中央、TP01に平行する様に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向は $N-77.5^{\circ}-W$ を示す。規模は開口部で長軸344cm×短軸38cm、底部で長軸294cm×短軸8cm、深さは最深部で88cmを測る。底部は八戸火山灰層上位面を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり、短軸側はほぼ直に立ち上がり開口部付近でやや外傾する。短軸断面形はほぼU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、4層に分層され黒色土、黒褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

TP03溝状土坑 (第12図、写真図版17)

B8グリット北東側に位置し、等高線に対してほぼ平行する。平面形は細長楕円形で、TP04と重複している。TP03がTP04に切られるプランで検出され、新旧関係はTP04が新しい。長軸方向は $N-88.5^{\circ}-E$ を示す。規模は開口部で長軸残存値180cm×短軸22cm、底部で長軸残存値170cm×短軸6cm、深さは最深部で58cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁は長軸側、短軸側ともほぼ直に立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土を基調とし4層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP04溝状土坑 (第12図、写真図版18)

TP03を切るプランで検出された。等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向は $N-75^{\circ}-W$ を示す。規模は開口部で長軸推定250cm×短軸36cm、底部で長軸推定200cm×短軸6cm、深さは最深部で62cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦である。底部から壁は長軸側、短軸側とも外傾して立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はU字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし6層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP05溝状土坑 (第12図、写真図版18)

B9グリット西側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向は $N-89^{\circ}-E$ を示す。規模は開口部で長軸346cm×短軸28cm、底部で長軸312cm×短軸6cm、深さは最深部で98cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底としている。底面は平坦であるが、両端から中央部に向かって若干湾曲する。底部から壁の長軸側はほぼ直に立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり開口部付近で若干

外傾する。短軸断面形はほぼU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし3層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP06溝状土坑（第13図、写真図版19）

B10グリットほぼ中央に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、SK17と重複している。TP06がSK17に切られるプランで検出され、新旧関係はSK17が新しい。長軸方向はN-100.5°-Eを示す。規模は残存値で開口部が長軸262cm×短軸84cm、底部が長軸198cm×短軸28cm、深さは最深部で126cmを測る。底部は八戸火山灰層下位層まで掘削し、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は直に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至り、短軸側は外傾気味に立ち上がり外反しながら開口部へ至る。短軸断面形はU字状～Y字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、7層に分層される。上位層は黒褐色土が基調で、下位層はにぶい黄褐色土、褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

TP07溝状土坑（第13図、写真図版19）

B11グリット北西側に位置し、等高線に対して斜交する。本調査区内で標高が最も高い所に位置する溝状土坑で、丘陵上に構築され標高は55.06mである。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-41°-Eを示す。規模は開口部で長軸324cm×短軸28cm、底部で長軸57cm×短軸12cm、深さは中央部で140cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は内湾し立ち上がり、中央付近から外反し開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり中位付近で外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、9層に分層される。上位層は黒色土、黒褐色土が主体で、下位層は黄褐色土が主体となる。遺構内からの出土遺物はない。

TP08溝状土坑（第13図、写真図版19）

C5グリット南東側に位置し、等高線に対してほぼ平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-75.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸287cm×短軸62cm、底部で長軸190cm×短軸12cm、深さは最深部で86cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直気味に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈し、両壁共中央部で軽く屈曲する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし6層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP09溝状土坑（第13図、写真図版20）

C7グリットほぼ中央に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-55°-Eを示す。規模は開口部で長軸298cm×短軸38cm、底部で長軸242cm×短軸16cm、深さは最深部で66cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが北東方向に傾斜する。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はほぼU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土を基調とし5層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP10溝状土坑（第13図、写真図版20）

C9グリット中央に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向は $N-80^{\circ}-W$ を示す。規模は開口部で長軸378cm×短軸60cm、底部で長軸356cm×短軸12cm、深さは中央部で156cmを測る。底部は八戸火山灰層下位層まで掘削する。底面は平坦であるが、西側に向かい緩やかに傾斜する。底部から壁の長軸側は直に立ち上がり開口部へ至り、短軸側はほぼ直に立ち上がり中位付近から開口部に向かい外傾する。短軸断面形はU字状～Y字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、9層に分層される。中～上位層は黒色土、暗褐色土、黒褐色土、下位層は黄褐色土、明黄褐色土、明褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

TP11溝状土坑（第14図、写真図版20）

C9グリット南東側に位置し、等高線に対して平行する。開口部平面形は楕円形で、底部平面形は細長楕円形を呈する。長軸方向は $N-73.5^{\circ}-E$ を示す。規模は開口部で長軸426cm×短軸290cm、底部で長軸168cm×短軸33cm、深さは中央部で222cmを測る。底部は高館火山灰層上位層を掘削し、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり上端付近で北壁側は外反し、南壁側は外傾する。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、14層に分層される。中～上位層は黒色土、黒褐色土を主体とし、下位層は黄褐色土、明黄褐色土が主体となる。下位層の明黄褐色土の堆積土量を考慮すると開口部が崩落した可能性があり、構築時の開口部平面形は細長楕円形であった可能性がある。遺構内からの出土遺物はない。

TP12溝状土坑（第14図、写真図版21）

D6グリット北東隅、E6グリット境上に位置し、等高線に対してやや斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向は $N-13.5^{\circ}-E$ を示す。規模は開口部で長軸303cm×短軸64cm、底部で長軸212cm×短軸8cm、深さは最深部で104cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが北東側に緩やかに傾斜する。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直気味に立ち上がり中位付近から東壁は外反し、西壁は外傾する。短軸断面形はY字状を呈し、東壁は軽く屈曲する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし9層に分層され、第1層、4層には炭化微粒が少量混入する。遺構内からの出土遺物はない。

TP13溝状土坑（第14図、写真図版21）

D6グリット南東隅、一部はC6グリット、C7グリットに位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向は $N-65.5^{\circ}-W$ を示す。規模は開口部で長軸286cm×短軸44cm、底部で長軸226cm×短軸10cm、深さは最深部で75cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は若干凹凸が見られる。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はU字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、8層に分層される。黒褐色土を主体とし、黒色土、暗褐色土、黒褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

TP14溝状土坑（第14図、写真図版21）

D7グリット北西隅に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向は $N-2^{\circ}-W$

を示す。規模は開口部で長軸339cm×短軸30cm、底部で長軸293cm×短軸4cm、深さは最深部で94cmを測る。底部は八戸火山層を基底とし、底面はほぼ平坦である。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり、短軸側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はほぼU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし5層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP15溝状土坑（第14図、写真図版22）

D10グリット北東隅に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-74.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸352cm×短軸40cm、底部で長軸295cm×短軸3cm、深さは中央部で56cmを測る。底部は土層対比図⑤第IV層を基底とし、底面はほぼ平坦であるが若干西側に傾斜する。底部から壁は長軸側、短軸側とも外傾して立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はV字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土を基調とし3層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP16溝状土坑（第15図、写真図版22）

E5グリット南東隅に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-34°-Eを示す。規模は開口部で長軸302cm×短軸52cm、底部で長軸206cm×短軸10cm、深さは最深部で141cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はやや凹凸が見られ両壁直下に落ち込みを持つ。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側はやや外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はU字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし8層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP17溝状土坑（第15図、写真図版22）

E6グリット北西隅に位置し、等高線に対してやや平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-34°-Eを示す。規模は開口部で長軸348cm×短軸36cm、底部で長軸302cm×短軸3cm、深さは最深部で116cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はやや凹凸が見られ両壁直下に落ち込みを持ち北東側に若干傾斜する。底部から壁の長軸側はほぼ直に立ち上がり外傾しながら開口部へ至る。短軸側は直気味に立ち上がり、北西側は直気味のまま開口部へ至り、南東壁側は反し開口部へ至る。短軸断面形は片側U字状、片側V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし7層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP18溝状土坑（第15図、写真図版23）

E11グリット西側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-58°-Wを示す。規模は開口部で長軸355cm×短軸44cm、底部で長軸298cm×短軸4cm、深さは中央部で72cmを測る。開口部長軸両端の比高差は70cmである。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は凹凸が見られる。底部から壁の長軸北東壁側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、南東壁側は直に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土を基調とし3層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP19溝状土坑 (第15図、写真図版23)

E11グリット北東隅に位置し、等高線に対してやや斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-67.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸256cm×短軸70cm、底部で長軸144cm×短軸12cm、深さは最底部で112cmを測る。開口部長軸両端の比高差は56cmである。底部は八戸火山灰層を基底とする。底面は平坦で西側に傾斜し、西壁直下には長軸28cm×短軸12cm、深さ24cmの副穴を持つ。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がるがすぐに外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、10層に分層される。中～上位層は黒褐色土が主体で、下位層は褐色土、黄褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

TP20溝状土坑 (第15図、写真図版23)

F4グリット南西隅、一部E3、E4、F3グリットに位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-81°-Eを示す。規模は開口部で長軸349cm×短軸45cm、底部で長軸336cm×短軸13cm、深さは中央部で90cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は直に立ち上がり開口部へ至る。短軸側は直気味に立ち上がり、南壁側は中位付近で屈曲、直立して開口部へ至り、北壁側は若干外傾するものの直気味に開口部へ至る。短軸断面形はほぼU字状を呈し、一部T字状で、南壁は段を有する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし7層に分層される。

図示はしないが、覆土第1層より葎石の敲打部の破片が1点出土している。

TP21溝状土坑 (第16図、写真図版24)

F4グリットやや東側に位置し、等高線に対して若干斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-7°-Eを示す。規模は開口部で長軸346cm×短軸34cm、底部で長軸328cm×短軸10cm、深さは中央部で106cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は直に立ち上がり開口部へ至る。短軸側はほぼ直に立ち上がり東壁はそのまま開口部へ、西壁は上端部付近で軽く屈曲、直立し開口部へ至る。短軸断面形は片側U字状、片側Y字状を呈し、西壁は軽く屈曲する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土、黒褐色土を主体に7層に分層される。

図示はしないが、覆土第1層より縄文土器片が2点出土している。

TP22溝状土坑 (第16図、写真図版24)

F5グリットほぼ中央に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-75.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸319cm×短軸46cm、底部で長軸266cm×短軸8cm、深さは中央部で94cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦である。底部から壁の長軸側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がり南西壁側は上端部付近で屈曲、外傾気味に開口部へ至り、北東壁側は開口部付近で外反する。短軸断面形はT字状～Y字状を呈し、北東壁はやや強く屈曲、南西壁は段を有する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土、黒褐色土を主体に7層に分層される。

図示はしないが、覆土上層より縄文土器片が1点出土している。

TP23溝状土坑 (第16図、写真図版24)

F5グリット東側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-54°-Wを示す。規模は開口部で長軸285cm×短軸53cm、底部で長軸226cm×短軸16cm、深さは最深部で108cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦であるが北西側に傾斜する。底部から壁の長軸側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸側の北東壁側はほぼ直に立ち上がり、南西壁側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし8層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP24溝状土坑 (第16図、写真図版25)

F7グリット北東隅に位置し、等高線に対してわずかに斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸北東端側は木根下に延びる。長軸方向はN-57.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸計測値336cm×短軸54cm、底部で長軸330cm×短軸8cm、深さは中央部で132cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸南西壁側は直に立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり上端部付近で若干屈曲し直気味に開口部へ至る。短軸断面形はY字状に近い形状を呈し、両壁共軽く屈曲する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし6層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP25溝状土坑 (第16図、写真図版25)

F7グリット南東隅側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-55°-Wを示す。規模は開口部で長軸280cm×短軸68cm、底部で長軸142cm×短軸6cm、深さは最深部で156cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが南東側にやや傾斜する。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり、短軸側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸断面形はU字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、6層に分層される。上位層は黒色土、中～下位層は黒褐色土が主体である。遺構内からの出土遺物はない。

TP26溝状土坑 (第17図、写真図版25)

F10グリット、F11グリット境中央部に位置し、等高線に対してほぼ直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-30°-Wを示す。TP27に近接し軸をほぼ同じくする。規模は開口部で長軸349cm×短軸34cm、底部で長軸290cm×短軸10cm、深さは中央部で102cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦であるが北西側に傾斜する。底部から壁の長軸北西壁側は直気味に立ち上がり、南東壁側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がり開口部付近で若干外傾する。短軸断面形はほぼU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土を基調とし4層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP27溝状土坑 (第17図、写真図版26)

F11グリット西側、TP26の東側に平行する様に位置し、軸は異なるがTP28と隣接する。等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-32°-Wを示す。規模は開口部で長軸354cm×短軸42cm、底部で長軸314cm×短軸8cm、深さは中央部で134cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とする。底面は凹凸が見られ北側に傾斜し、長軸側北壁直下に落ち込みがある。底部から壁の長軸側はほぼ直に立ち

上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がりすぐに外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、5層に分層される。上位層は黒色土、下位層は黒褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

T P 28溝状土坑 (第17図、写真図版26)

F11グリット中央やや西側、TP27の北東に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-65° -Wを示す。規模は開口部で長軸396cm×短軸40cm、底部で長軸371cm×短軸4cm、深さは中央部で64cmを測る。開口部長軸両端の比高差は72cmである。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は南東壁直下に若干の落ち込みを持ち北西側に傾斜する。底部から壁の長軸側はやや外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側はほぼ直に立ち上がりすぐに外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土を基調とし3層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

T P 29溝状土坑 (第17図、写真図版26)

F11グリット北側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-53° -Wを示す。TP38と近接し軸はほぼ同じで平行する様に位置する。規模は開口部で長軸315cm×短軸35cm、底部で長軸240cm×短軸4cm、深さは中央部で113cmを測る。開口部長軸両端の比高差は52cmである。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸北西壁側は外傾して立ち上がり、南東壁側は直に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がり上端部付近で外傾して開口部へ至る。短軸断面形はほぼJ字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし6層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

T P 30溝状土坑 (第17図、写真図版27)

F11グリット中央に位置し、等高線に対して斜交する。軸は異なるがTP31に隣接する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-27.5° -Wを示す。規模は開口部で長軸354cm×短軸86cm、底部で長軸296cm×短軸20cm、深さは中央部で116cmを測る。底部は高館火山灰層上面を基底とし、底面は平坦であるが緩やかに北西側に傾斜する。底部から壁の長軸南東側は内湾気味に、北西壁側は外傾して立ち上がり開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がりすぐに外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、6層に分層される。上位層は黒褐色土が主体で、下位層は黄褐色土、明黄褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

T P 31溝状土坑 (第18図、写真図版27)

F11グリット中央東側、TP30の東側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-38° -Eを示す。規模は開口部で長軸279cm×短軸67cm、底部で長軸183cm×短軸5cm、深さは中央部で112cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが緩やかに南西側に傾斜する。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がりすぐに外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土、黒褐色土を主体とし6層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP32溝状土坑 (第18図、写真図版27)

F11グリット北東隅、G11グリット境上に位置し、等高線に対してやや斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-42° -Wを示す。規模は開口部で長軸376cm×短軸74cm、底部で長軸390cm×短軸9cm、深さは中央部で151cmを測る。開口部長軸両端の比高差は84cmである。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが北西側に傾斜する。底部から壁の長軸側は内湾して立ち上がり直気味に開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至る。長軸断面形は底部から中位付近にかけてオーバーハングし、短軸断面形はY字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、8層に分層される。上位層は黒色土、黒褐色土が主体で、下位層は褐色土、黄褐色土が主体となる。遺構内からの出土遺物はない。

TP33溝状土坑 (第18図、写真図版28)

G6グリット南側、F6グリット境付近でTP34と平行する様に位置し、軸もやや近似する。等高線に対して斜交する。長軸北西端は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-30° -Wを示す。規模は開口部で長軸計測値222cm×短軸44cm、底部で長軸計測値212cm×短軸14cm、深さは最深部で92cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸南東側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸側はほぼ直に立ち上がり、南西側は外傾しながら開口部へ至るが、北東側は上位部で屈曲、外傾して開口部へ至る。短軸断面形はV字状～Y字状を呈し、北東壁中央部に段を有する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし7層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP34溝状土坑 (第18図、写真図版28)

G6グリット南東側、F6グリット境付近でTP33の東側に位置し、等高線に対して斜交する。TP33と同様長軸北西端は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-43.5° -Wを示す。規模は開口部で長軸計測値310cm×短軸58cm、底部で長軸計測値299cm×短軸12cm、深さは最深部で122cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦である。底部から壁の長軸南東側は外傾気味に立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり上端部付近で外反する。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒褐色土を基調とし7層に分層される。

覆土第1、2層より縄文土器片が2点ずつ出土している。ほとんど小破片で摩滅しているが、その内1点を図示した。K2は深鉢の胴部片である (第22図、写真図版33)。

TP35溝状土坑 (第18図、写真図版28)

G11グリット西側、G10グリット境中央に位置し、等高線に対して直交する。本調査区内で標高が最も低い所に位置する溝状土坑で、埋没谷底部に構築され標高は43.82mである。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-54° -Wを示す。TP36、39と軸はほぼ同じで平行する様に位置する。規模は開口部で長軸373cm×短軸27cm、底部で長軸313cm×短軸7cm、深さは中央部で67cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが北西側に若干傾斜する。底部から壁の長軸北西側は外傾して立ち上がり、南東側はやや外傾して立ち上がり開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がり上端部付近で若干外反する。短軸断面形はほぼU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土を基調とし3層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

T P 36溝状土坑 (第19図、写真図版29)

G11グリット西側、TP35の東、TP39の南西に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-51°-Wを示す。規模は開口部で長軸361cm×短軸47cm、底部で長軸298cm×短軸11cm、深さは中央部で98cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とする。底面は南東壁直下に落ち込みがあり、中央やや南東側付近から再び落ち込み北西側に緩やかに傾斜する。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり中位付近から外反し開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土を基調とし3層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

T P 37溝状土坑 (第19図、写真図版29)

G11グリット西側、東に隣接するTP41と軸はほぼ同じで、平行する様に位置する。等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-60.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸360cm×短軸57cm、底部で長軸324cm×短軸10cm、深さは最深部で84cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とする。底面は北西壁、南東壁直下並びに中央やや南東側に落ち込みを持つ。底部から壁の長軸北西側は直に立ち上がり開口部へ至り、南東壁側は直に立ち上がり中位付近から外反し開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がり中位付近から外反する。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、4層に分層される。上位層は黒色土、下位層は黒褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

T P 38溝状土坑 (第19図、写真図版29)

G11グリット南側、TP29の北側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-57°-Wを示す。規模は開口部で長軸344cm×短軸31cm、底部で長軸314cm×短軸8cm、深さは中央部で66cmを測る。開口部長軸両端の比高差は74cmである。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦であるが北西側に傾斜する。底部から壁の長軸側は直気味に立ち上がり開口部へ至り、短軸側はほぼ直に立ち上がり開口部付近で若干外反する。短軸断面形はほぼU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土3層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

T P 39溝状土坑 (第19図、写真図版30)

G11グリット中央北側に位置し、若干距離があるがTP36の北東側、軸は異なるもののTP40に隣接する。等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-56.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸381cm×短軸40cm、底部で長軸417cm×短軸5cm、深さは中央部で92cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが北西側に緩やかに傾斜する。底部から壁の長軸北西壁側は内湾して立ち上がり内傾して開口部へ至り、南東壁は内湾気味に立ち上がり直に開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がり上端部付近で外傾する。長軸断面は北西壁側が大きくオーバーハングし、南東壁側は極わずかにオーバーハングする。短軸断面形はほぼU字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土、黒褐色土を主体に6層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

T P 40溝状土坑 (第19図、写真図版30)

G11グリット北側、TP39の北東に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-75°-Wを示す。規模は開口部で長軸358cm×短軸56cm、底部で長軸341cm×短軸8cm、深さは

中央部で132cmを測る。開口部長軸両端の比高差は50cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸西壁側は外傾気味に立ち上がり、東壁側は直気味に立ち上がり開口部へ至る。短軸側は直に立ち上がり上部付近で外反する。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土、黒褐色土を主体に6層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP41溝状土坑 (第20図、写真図版30)

G11グリットほぼ中央、TP37の東側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-56°-Wを示す。規模は開口部で長軸379cm×短軸54cm、底部で長軸288cm×短軸9cm、深さは中央部で46cmを測る。開口部長軸両端の比高差は66cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は南東壁直下に落ち込みがあり、さらに中央南東側から再び落ち込み北西側に傾斜する。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり中位付近で外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、黒色土、黒褐色土を基調とし7層に分層される。遺構内からの出土遺物はない。

TP42溝状土坑 (第20図、写真図版31)

G12グリット中央に位置し、等高線に対してやや斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-12.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸389cm×短軸73cm、底部で長軸258cm×短軸20cm、深さは中央部で112cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は北壁直下にわずかに落ち込みが見られる。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がりすぐに外傾して開口部へ至る。短軸断面形はU字状～V字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、6層に分層される。中～上位層は黒褐色土、暗褐色土が主体で、下位層は黄褐色土が堆積する。

覆土第1層より縄文土器片が約40点、第2、3層より各1点ずつ出土しているが、ほとんど小破片で摩滅している。その内4点を図示した。No.3は深鉢の口縁部片、No.4は深鉢の胴部片で隆帯が貼り付けられる。No.5は深鉢の底部、No.6は深鉢の胴部片で第2層から出土している (第22図、写真図版33)。

TP43溝状土坑 (第20図、写真図版31)

G12グリット北東隅、H12グリット境上に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-53.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸314cm×短軸48cm、底部で長軸218cm×短軸8cm、深さは中央部で102cmを測る。底部は高館火山灰層上位層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、4層に分層される。上位層は黒褐色土、暗褐色土、下位層は褐色土が堆積する。

図示はしないが、覆土第2層より縄文土器片が7点出土している。ほとんどが小破片で摩滅している。

TP44溝状土坑 (第20図、写真図版31)

H11グリット東側、H12グリット境上に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-39°-Wを示す。規模は開口部で長軸226cm×短軸41cm、底部で長軸186cm×短軸5cm、深さは中央部で60cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁の長軸側は

外傾して立ち上がり開口部へ至り、短軸側は直に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、3層に分層される。

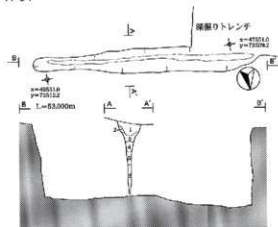
覆土第2層より縄文土器片が3点出土しており、それらを図示した。いずれも同一個体と考えられ、No.7、8は深鉢の胴部片、No.9は深鉢の口縁部片である（第22図、写真図版33）。

TP45溝状土坑（第20図、写真図版32）

H12グリット中央やや東側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-88.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸298cm×短軸54cm、底部で長軸204cm×短軸10cm、深さは中央部で105cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は東壁直下と中央部に落ち込みを持つ。底部から壁の長軸東壁側はほぼ直に、西壁側は外傾して立ち上がり開口部へ至る。短軸側はほぼ直に立ち上がり中位付近から外傾して開口部へ至る。短軸断面形はY字状を呈する。覆土は自然堆積の様相を示し、6層に分層される。中～上位層は暗褐色土が主体で、下位層には黄褐色土、明黄褐色土が堆積する。

覆土第1層より縄文土器片が4点、第2、3層より2点ずつ出土しているが、ほとんど小破片で摩滅している。その内2点を図示した。No.10、11は深鉢の口縁部片である（第22図、写真図版33）。また、第3層より蔽磨石が1点出土している（第22図、写真図版33）。

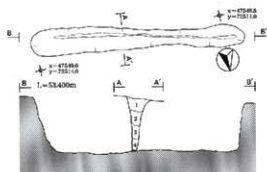
TP01



TP01

- 1 10YR2/1黒色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約10%混入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約5%混入
- 3 10YR3/1黄褐色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約10%混入
- 4 10YR2/1黒色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約1%混入
- 5 10YR2/2黄褐色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約5%混入
- 6 10YR2/3黄褐色 粘液中 締まり中 10YR6/9明黄褐色色約7%混入

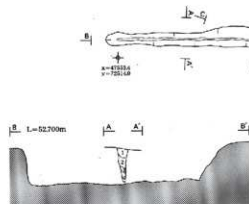
TP02



TP02

- 1 10YR2/1黒色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約10%混入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘液中 締まり中
- 3 10YR3/1黄褐色 粘液中 締まり中
- 4 10YR2/1黒色 粘液中 締まり中

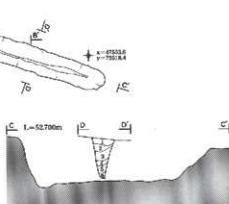
TP03



TP03

- 1 10YR2/1黒色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約10%混入
- 2 10YR1/7/1灰色 粘液中 締まり中 10YR6/9明黄褐色色約10%混入
- 3 10YR2/2黄褐色 粘液中 締まり中
- 4 10YR2/1黒色 粘液中 締まり中

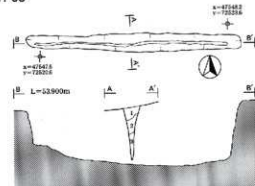
TP04



TP04

- 1 10YR2/1灰色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約3%混入
- 2 10YR3/1黄褐色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約16%混入
- 3 10YR2/1黒褐色 粘液中 締まり中 10YR6/9明黄褐色色約1%混入
- 4 10YR2/2黄褐色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約3%混入
- 5 10YR2/1黒色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約2%混入
- 6 10YR3/1黄褐色 粘液中 締まり中 草根入る

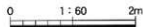
TP05



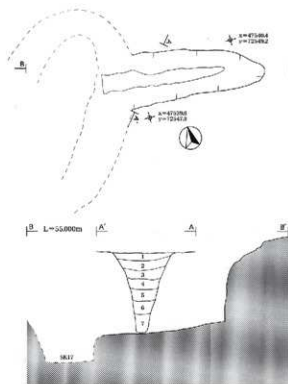
TP05

- 1 10YR2/1灰色 粘液中 締まり中 草根入る 10YR6/9明黄褐色色約5%混入
- 2 10YR2/2黄褐色 粘液中 締まり中
- 3 10YR3/1黄褐色 粘液中 締まり中

第12図 溝状土坑 TP01~05

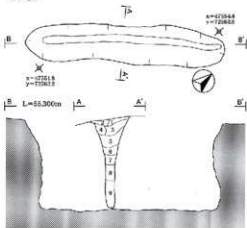


TP06



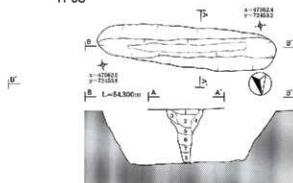
- TP06
- 1 10YR5/3黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 穴底、本層入 10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 2 10YR5/3黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色、10YR7/7黄褐色中粒少量混入
 - 3 10YR5/3黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒20%混入
 - 4 10YR5/3黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒20%混入
 - 5 10YR5/6C赤小量混入 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで
 - 6 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで
 - 7 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで

TP07



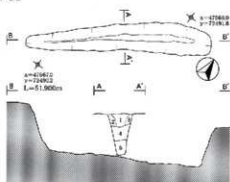
- TP07
- 1 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 穴底入
 - 2 10YR1/7黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/4黄褐色小粒少量混入
 - 3 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 穴底入 10YR5/9-7少許混入
 - 4 10YR5/4黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR7/6黄褐色小粒少量混入 10YR7/8黄褐色小粒少量混入
 - 5 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR7/6黄褐色小粒少量混入 10YR7/8黄褐色小粒少量混入
 - 6 10YR5/4黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 10YR7/6黄褐色小粒3%混入
 - 7 10YR5/6C赤小量混入 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで
 - 8 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで
 - 9 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで

TP08



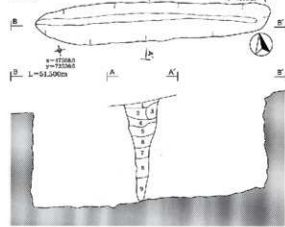
- TP08
- 1 10YR5/3黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 穴底、本層入 10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 2 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 3 10YR5/3黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒10%混入
 - 4 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 5 10YR5/3黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒5%混入
 - 6 10YR5/3黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒5%混入

TP09



- TP09
- 1 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 10YR5/6黄褐色小粒3%混入
 - 2 10YR1/7黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒7%混入
 - 3 10YR1/7黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒1%混入
 - 4 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 5 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 6 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒少量混入

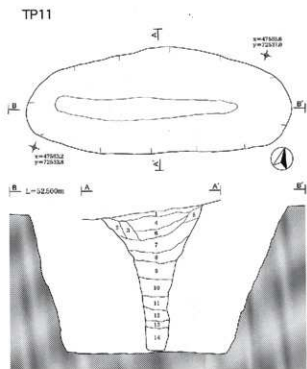
TP10



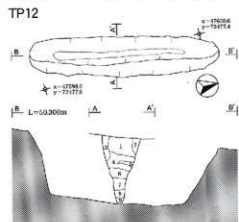
- TP10
- 1 10YR1/7黒色 粘粒中 罐蓋の中 穴底入
 - 2 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒1%混入
 - 3 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで 10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 4 10YR2/1黒色 粘粒中 罐蓋の中 穴底入 10YR7/6黄褐色、10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 5 10YR3/黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 10YR7/6黄褐色、10YR5/6黄褐色小粒少量混入
 - 6 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで
 - 7 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで
 - 8 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで
 - 9 10YR5/6黄褐色 粘粒中 罐蓋の中 罐蓋の底まで

0 1:60 2m

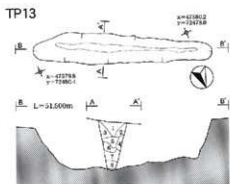
第13図 溝状土坑 TP06~10



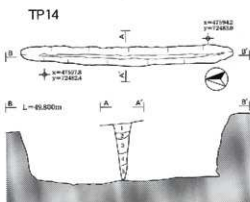
- TP11
- 1 10YR2/1黒色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR7/7明黄褐色小粒1%混入
 - 2 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型中心部 厚壁入る
 - 3 10YR3/1黒褐色 粘性質 跡取り型中心部
 - 4 10YR2/1黒色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR7/8-9/6-7明黄褐色小粒1%混入
 - 5 10YR3/1.5黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR7/7明黄褐色小粒1%混入
 - 6 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型中心部 厚壁入る
 - 7 10YR7/4-6明黄褐色小粒1%混入
 - 8 10YR2/1黒褐色 粘性質 厚壁入る 10YR7/7明黄褐色小粒1%混入
 - 9 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型中心部 厚壁入る 10YR7/7明黄褐色小粒1%混入
 - 10 10YR3/1.5黄褐色 粘性質 跡取り型中心部 厚壁入る 10YR7/7明黄褐色小粒1%混入
 - 11 7.5YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型 10YR6/6明黄褐色大フロック混入
 - 12 10YR7/7明黄褐色 粘性質 跡取り型
 - 13 7.5YR3/1.5黄褐色 粘性質 跡取り型
 - 14 10YR6/6明黄褐色 粘性質 跡取り型 10YR2/1黒土を挟み混入



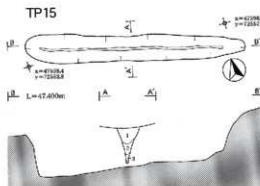
- TP12
- 1 10YR2/1黒褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 成欠跡時少量混入
 - 2 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR4/4黄褐色小粒1%混入
 - 3 10YR2/2黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR4/4黄褐色小粒1%混入
 - 4 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 成欠跡時少量混入
 - 5 10YR3/1黄褐色 粘性質 跡取り型
 - 6 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色
 - 7 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型 10YR5/5黄褐色小粒1%混入
 - 8 10YR3/1黄褐色 粘性質 跡取り型 10YR6/6明黄褐色小粒1%混入
 - 9 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型



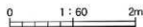
- TP13
- 1 10YR2/1黒褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色小粒少量混入
 - 2 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色小粒1%混入
 - 3 10YR3/1黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR5/5黄褐色小粒1%混入
 - 4 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色小粒少量混入
 - 5 10YR2/1黒褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR5/5黄褐色小粒少量混入
 - 6 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR5/5黄褐色小粒少量混入
 - 7 10YR3/1黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色小粒少量混入
 - 8 10YR2/2黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色小粒少量混入



- TP14
- 1 10YR2/1黒褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色小粒1%混入
 - 2 10YR2/2黄褐色 粘性質 跡取り型中心部 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色小粒1%混入
 - 3 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型中心部 厚壁入る 10YR5/5黄褐色小粒少量混入
 - 4 10YR3/1黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR6/6明黄褐色小粒少量混入
 - 5 10YR3/2黄褐色 粘性質 跡取り型

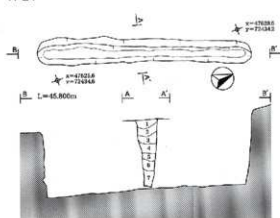


- TP15
- 1 10YR2/1黒褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR7/7明黄褐色
 - 2 10YR3/1黄褐色 粘性質 跡取り型 厚壁入る 10YR7/7明黄褐色小粒1%混入
 - 3 10YR3/1.7黄褐色 粘性質 跡取り型



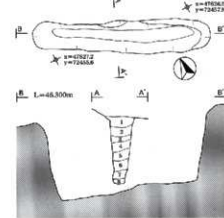
第14図 溝状土坑 TP11~15

TP21



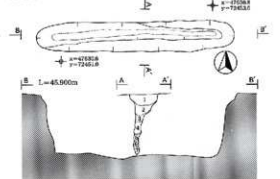
- TP21
- 1 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 2 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR3/3暗褐色小砂土埋藏小瓦片
 - 3 10YR1/1紅色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土
 - 4 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR3/3暗褐色小砂土
 - 5 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 6 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 7 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入

TP23



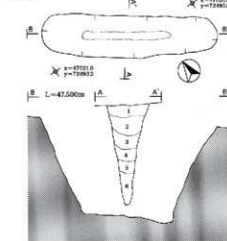
- TP23
- 1 10YR3/1紅褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 2 10YR2/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR3/4暗褐色小砂土埋藏少量瓦片
 - 3 10YR3/1紅褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土
 - 4 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土
 - 5 10YR2/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR3/4暗褐色小砂土
 - 6 10YR1/1紅色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土埋藏少量瓦片
 - 7 10YR3/1紅褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土
 - 8 10YR3/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土

TP22



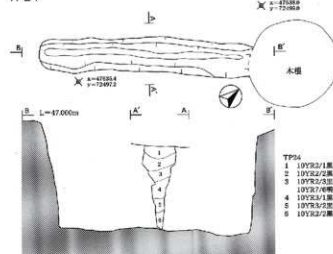
- TP22
- 1 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土
 - 2 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR1/1紅色小砂土 10YR3/3暗褐色大砂土
 - 3 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 4 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 5 10YR2/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 6 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 7 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入

TP25



- TP25
- 1 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 2 10YR1/1紅色 黏土中 雜草少量 草根 木根入 10YR5/6暗褐色 10YR3/3暗褐色小砂土
 - 3 10YR2/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根 木根入 10YR2/3暗褐色 10YR3/3暗褐色小砂土
 - 4 10YR2/3暗褐色 黏土中 雜草少量 10YR3/3暗褐色小砂土埋藏少量瓦片
 - 5 10YR2/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 6 10YR3/3暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入

TP24

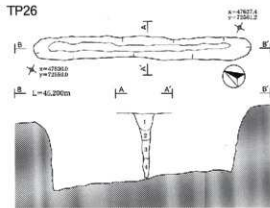


- TP24
- 1 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入
 - 2 10YR2/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR3/4暗褐色小砂土
 - 3 10YR2/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土
 - 4 10YR2/1褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR3/3暗褐色小砂土
 - 5 10YR3/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/3暗褐色小砂土
 - 6 10YR2/2暗褐色 黏土中 雜草少量 草根入 10YR2/2暗褐色小砂土

第16圖 溝狀土坑 TP21~25

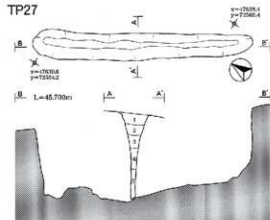


TP26



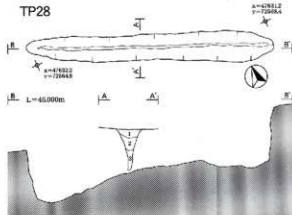
- TP26
- 1 10YR2/1黒色 粘り強 継ぎり強 草根入る 10YR3/2緑褐色粘り強土に少量混入
 - 2 10YR2/1黒褐色 粘り強 継ぎり強土層 草根入る
 - 3 10YR2/2黄褐色 粘り強 継ぎり強土層に少量混入
 - 4 10YR1/1黒色 粘り強 継ぎり強 草根入る
 - 5 10YR2/2黄褐色 粘り強 継ぎり強

TP27



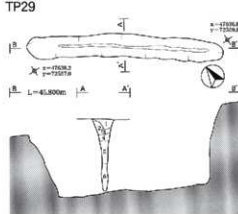
- TP27
- 1 10YR2/1黒色 粘り強 継ぎり強 草根入る 10YR2/9暗褐色粘り強土に混入
 - 2 10YR2/1黒褐色 粘り強 継ぎり強 草根入る
 - 3 10YR1/1黒色 粘り強 継ぎり強 草根入る 10YR6/9暗褐色粘り強土に混入
 - 4 10YR2/2黄褐色 粘り強 継ぎり強
 - 5 10YR4/4褐色 粘り強 継ぎり強土層

TP28



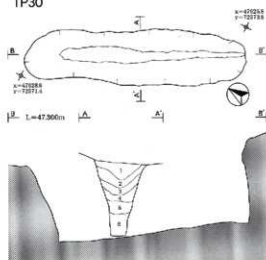
- TP28
- 1 10YR1/1黒色 粘り強 継ぎり強 草根入る 10YR2/2緑褐色粘り強土に少量混入
 - 2 10YR2/1黒褐色 粘り強 継ぎり強 草根入る 10YR3/2緑褐色粘り強土に少量混入
 - 3 10YR2/1黒褐色 粘り強 継ぎり強 草根入る 10YR3/3緑褐色粘り強土に少量混入

TP29

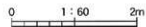


- TP29
- 1 10YR2/2黄褐色 粘り強 継ぎり強 草根入る
 - 2 10YR6/4褐色 粘り強 継ぎり強 草根入る
 - 3 10YR6/9暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/7暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/7暗褐色粘り強土に少量混入
 - 4 10YR5/6暗褐色粘り強土に少量混入 10YR5/7暗褐色粘り強土に少量混入 10YR5/8暗褐色粘り強土に少量混入
 - 5 10YR2/1黒褐色 粘り強 継ぎり強 草根入る 10YR3/2緑褐色粘り強土に少量混入
 - 6 10YR1/1黒色 粘り強 継ぎり強

TP30

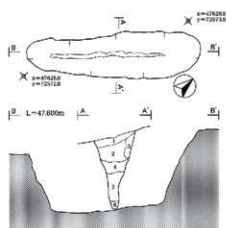


- TP30
- 1 10YR2/1黒色 粘り強 継ぎり強 草根入る 10YR6/9-10暗褐色粘り強土に少量混入
 - 2 10YR2/2黄褐色 粘り強 継ぎり強 草根入る
 - 3 10YR6/9暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/6黄褐色粘り強土に少量混入 10YR6/7暗褐色粘り強土に少量混入
 - 4 10YR6/9暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/7暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/8暗褐色粘り強土に少量混入
 - 5 10YR6/9暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/7暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/8暗褐色粘り強土に少量混入
 - 6 10YR6/9暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/7暗褐色粘り強土に少量混入 10YR6/8暗褐色粘り強土に少量混入



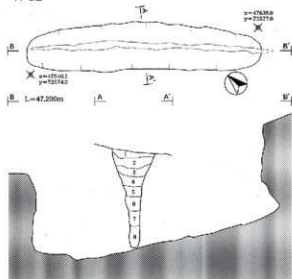
第17図 溝状土坑 TP26~30

TP31



- TP31
- 1 10YR2/1灰色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 2 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 3 10YR2/2灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 4 10YR2/3灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 5 10YR2/4黄褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 6 10YR2/1灰色 粘状物 跡より密 穿入点
- 10YR6/8-7(不明)黄褐色粘状物小穴10%混入
10YR6/8-9(不明)黄褐色粘状物約10%混入
10YR5/9黄褐色粘状物大ブロック右壁上方に混入
10YR2/1灰褐色粘状物大ブロック上方に混入

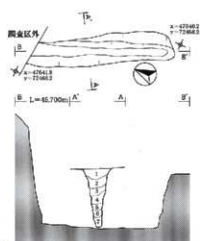
TP32



- TP32
- 1 10YR1/7灰褐色 粘状物 跡より密 10YR2/2黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入
 - 2 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 3 10YR2/2灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 4 10YR2/3灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 5 10YR2/4黄褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 6 10YR2/5黄褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 7 10YR2/6黄褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 8 10YR2/6黄褐色 粘状物 跡より密 穿入点
- 10YR6/8(不明)黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入
10YR6/8(不明)黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入
10YR6/8(不明)黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入
10YR6/8(不明)黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入
10YR6/8(不明)黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入
10YR6/8(不明)黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入
10YR6/8(不明)黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入
10YR6/8(不明)黄褐色粘状物大ブロック左壁側に少量混入

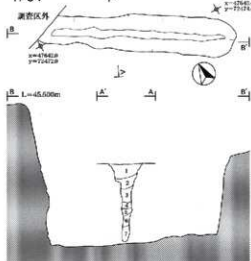
- TP35
- 1 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 2 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 3 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点

TP33



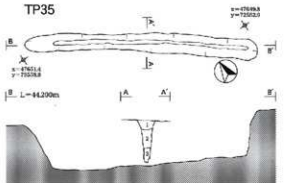
- TP33
- 1 10YR2/3灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 2 10YR2/3灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 3 10YR2/2灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 4 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 5 10YR2/2灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 6 10YR2/2灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 7 10YR2/2灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点

TP34



- TP34
- 1 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 2 10YR2/2灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 3 10YR2/3灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 4 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 5 10YR2/2灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 6 10YR2/3灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点
 - 7 10YR2/1灰褐色 粘状物 跡より密 穿入点

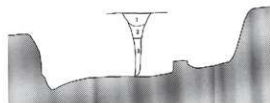
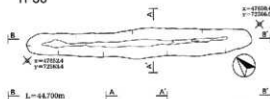
TP35



0 1:60 2m

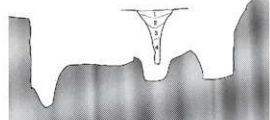
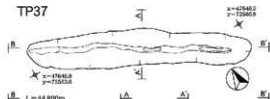
第18図 溝状土坑 TP31~35

TP36



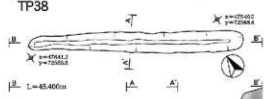
- TP36
 1 10YR1.7/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 2 10YR2.1/黒色 粘り強 粘り強めて硬 10YR3/2暗褐色小〜中粒粘土混入
 3 10YR5.1/黒褐色 粘り強 粘り強

TP37



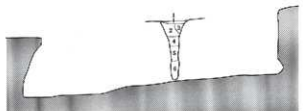
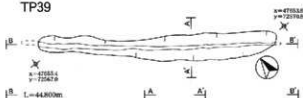
- TP37
 1 10YR1.7/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 2 10YR2.1/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入 10YR3/2暗褐色大粒粘土混入
 3 10YR3.1/黒褐色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 4 10YR5.1/黒褐色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入

TP38



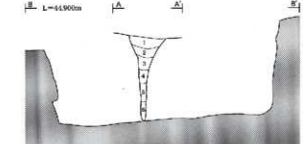
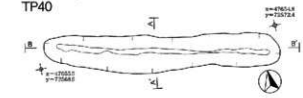
- TP38
 1 10YR1.7/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 10YR6/4暗褐色粘り強1%混入
 2 10YR2.1/黒色 粘り強 粘り強めて硬
 10YR3/2暗褐色大粒粘り強プロット間隙及び中央上方に多量混入
 3 10YR6/4暗褐色粘り強1%混入
 4 10YR1.7/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 10YR3/2暗褐色大粒粘り強中央上方に少量混入

TP39

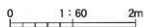


- TP39
 1 10YR1.7/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 2 10YR2.1/黒褐色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入 10YR4/4暗褐色小〜大粒粘土混入
 3 10YR1.7/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 4 10YR3.1/黒褐色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 10YR6/4暗褐色 10YR3/2暗褐色大粒粘土混入
 5 10YR3/2暗褐色 粘り強 粘り強めて硬
 6 10YR1.4/黒色 粘り強 粘り強めて硬

TP40

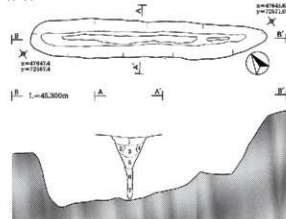


- TP40
 1 10YR1.7/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入 10YR5/6暗褐色小粒粘土混入
 10YR3/2暗褐色粘り強混入
 2 10YR2.1/黒褐色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入 10YR3/2暗褐色粘り強大粒粘土混入
 3 10YR1.4/黒褐色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入 10YR6/4暗褐色粘り強1%混入
 4 10YR1.7/黒色 粘り強 粘り強めて硬 草埋入
 5 10YR2.1/黒褐色 粘り強 粘り強めて硬
 6 10YR3.1/黒褐色 粘り強 粘り強めて硬



第19図 溝状土坑 TP36~40

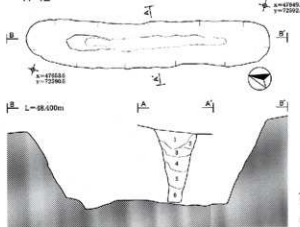
TP41



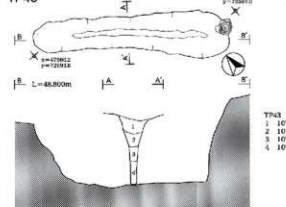
TP41

- 1 10YR2/1黒色 粘り層 粘まり層にて露 露層入る
- 2 10YR2/2黒褐色 粘り層 粘まり層 10YR6/8-7/黄褐色粘り層小粒1%混入
- 3 10YR2/3黒褐色 粘り層 粘まり層 10YR6/8-7/黄褐色粘り層小粒1%混入
- 4 10YR2/1黒褐色 粘り層 粘まり層 10YR6/8-7/黄褐色粘り層小粒1%混入
- 5 10YR2/1黒褐色 粘り層 粘まり層 10YR6/8-7/黄褐色粘り層小粒1%混入
- 6 10YR2/2黒褐色 粘り層 粘まり層 10YR6/8-7/黄褐色粘り層小粒1%混入
- 7 10YR2/3黒褐色 粘り層 粘まり層 10YR6/8-7/黄褐色粘り層小粒1%混入

TP42



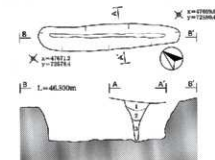
TP43



TP43

- 1 10YR2/1黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 2 10YR2/2黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 3 10YR2/3黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 4 10YR2/4黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る

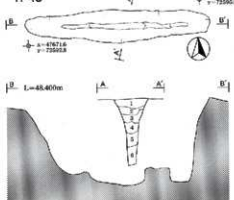
TP44



TP44

- 1 10YR2/2黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 2 10YR2/3黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 3 10YR2/4黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 4 10YR2/5黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る

TP45



TP45

- 1 10YR2/1黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 2 10YR2/2黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 3 10YR2/3黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 4 10YR2/4黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 5 10YR2/5黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 6 10YR2/6黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る

TP42

- 1 10YR2/1黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 2 10YR2/2黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 3 10YR2/3黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 4 10YR2/4黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 5 10YR2/5黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る
- 6 10YR2/6黒褐色 粘り層 粘まり層 粘り層入る

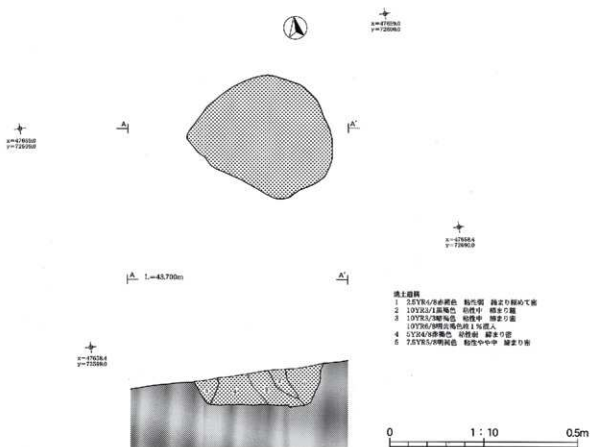
0 1:60 2m

第20図 溝状土坑 TP41~45

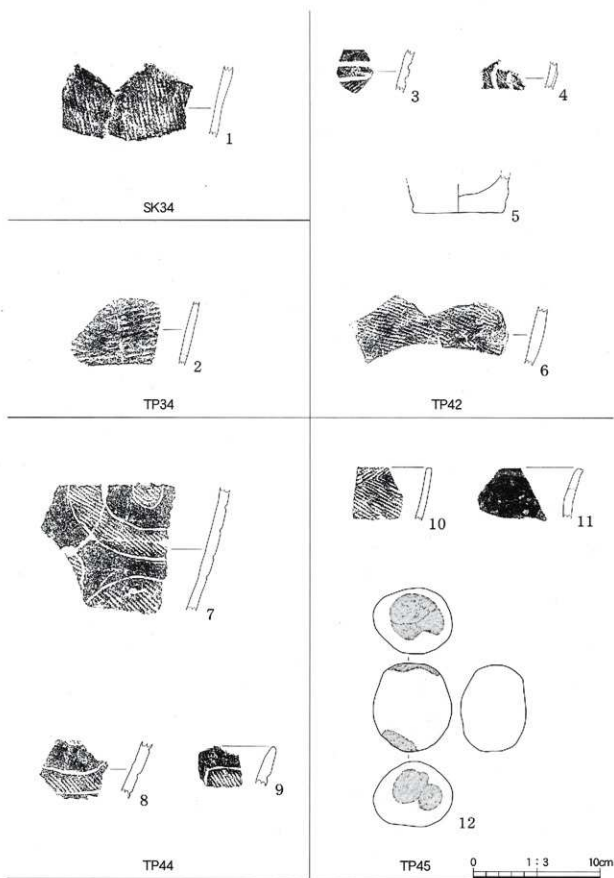
4. 焼土遺構

焼土遺構 (第21図、写真図版32)

H12グリット中央やや東側、TP45の南側に位置する。検出面は土層対比図⑥の第Ⅶ層に比定される八戸火山灰混合層上位面で、赤褐色の焼土が分布するプランで検出された。規模は長軸38cm×短軸22cmの楕円形の範囲である。断面では厚さ8cmまで焼土がブロック状に分布する。遺物等は伴わないが、検出時に同位面遺構近辺より縄文土器片が数点出土している。



第21図 焼土遺構



第22図 遺構内出土遺物

VI. 遺構外出土遺物

出土した全遺物は縄文土器、石器、鉄製品、煙管、銭貨、陶磁器である。縄文土器はコンテナ（54×34×13cm）約7箱分、総重量にして53kg、石器は礫石器を主体にコンテナ（54×34×13cm）約3箱分、総重量にして44.5kg出土している。また、明らかに持ち込まれたと考えられる円礫がコンテナ（54×34×13cm）で約5箱分、総重量にして52.2kg出土している。前述したとおり本調査区からの遺物の出土量は少なく、出土遺物のほとんどはG11、G12、H11、H12グリットからである。よってこれらのグリットにさらに小グリットを設定し層位毎に取り上げを行った。

近世以降の出土遺物として鉄製品3点、煙管1点、銭貨1点が出土している。陶磁器は近～現代のものが数点出土しているが、ほとんどが現代のものと見られる。陶磁器以外を図化して掲載した。

1. 土器

出土したコンテナ7箱のうち6箱は粗製土器である。また、ほとんどが小破片であり、接合を試みても器形を復元できるものは少なく完形品は極わずかである。ほぼ縄文時代中期末葉、後期初頭～前葉に位置付けられると考えられるが、時期や型式が断定できる土器片は少ない。以下の分類は記述する上で便宜上分類したものである。

第1類：磨消縄文、充填縄文が施されるもの (No.13～35 第23・24図、写真図版33・34)

磨消縄文、充填縄文を持つものを一括した。小破片のものが多く、文様の特徴を把握できるものは少ない。16の口縁部内面には緒状突起が貼り付けられ、20は波状の磨消縄文が施される。13、21、22は同一個体と見られ、21、22は無文部に瘤状突起が貼り付けられその周辺は連続刺突されている。28は渦巻状の沈線文様が施されている。29の深鉢は粗雑であるが、胴部中位～口縁部にかけて沈線区画と磨消縄文により入組状の文様が施され、胴部下半は磨かれている。30は胴部の中央やや上部側に最大径を持つ壺である。この最大径地点を境にして上半には29同様に入組状の文様が施され、胴部下半が磨かれている。31、32、33は同一個体と見られ、31には大型突起が付く。その他の土器片も沈線区画、磨消縄文、充填縄文等により文様が施されている。

第2類：隆帯文、沈線文が施されるもの (No.36～44 第24図、写真図版34)

小破片であるため文様等特徴全容の把握は難しいが、隆帯文や無地文に沈線文が施されると考えられるものを一括した。37、38、39は同一個体と見られ、隆帯文による円形文、楕円形文、渦巻文と見られる文様が施される。40、41も同一個体と見られ、隆帯に沿って沈線が施され、隆帯上には縄文が施文されている部分がある。42は隆帯貼付により文様が施される。44は釣り下り状突起が付く。

第3類：櫛歯状線条痕が施されるもの (No.45～47 第24・25図、写真図版34)

櫛歯状工具による線条痕と考えられる。出土した内の3点のみ図化した。ほとんどが縦位の直線状文である。34は縦位の他、横位の線条痕が見られる。櫛歯状工具には櫛歯の間隔が幅広いのものや、密のもの、間隔にばらつきがあるもの等が見受けられる。

第4類：折返口縁のもの (No.48～51 第25図、写真図版34)

出土した折返口縁の中で特徴的なものを抽出し図化した。48は折返部が無文で折返部直下に縄文が施文されている。反対に49は折返部に縄文が施文され、折返部直下は無文である。50は折返部も含め口縁部外

面全体に縄文が施文され、反対に51は外面全体が無文である。出土した折返口縁のものは、全体的に折返部が無文で直下に縄文が施文されるものが多いが、折返部の幅にはばらつきがある。

第5類：燃糸文が施されるもの (No.52～55 第25図、写真図版34・35)

出土したものの内4点を図化した。52、55は網目状燃糸文、53、54は縦位の燃糸文で、53には横位の沈線が見られる。縦位の燃糸文の出土量が多く、そのほとんどがR圧痕である。

第6類：その他上記以外の特徴をもつもの (No.56～67 第25図、写真図版35)

上記分類以外のものを一括したが、小破片で所定できないため第1類、2類の特徴を持つと見られるものも含まれる。56は無文の浅鉢で、粗雑であるが内外面、底部まで磨かれており木根処理中に29の深鉢と併伴して出土した。57～61は縄文施文後沈線が施されているが、60、61は一部縄文が撫で消されている。62は円形状の隆帯が貼付られ、63は刻目や半截竹管状の刺突が見られる。64は楕状把手が付き、65は壺胴部と見られ、外面に釣り下げ状突起が付き赤色塗料が付着している。66は注口土器の注口部片で、67は壺形土器の口縁部と見られ波状である。

第7類：粗製土器及び底部資料 (No.68～94 第25～28図、写真図版35～37)

粗製土器、底部資料を一括し特徴的なものを抽出し図化した。粗製土器の口縁部口唇の形態は角状、内削ぎ状、先細り状、丸みを帯びるもの等がある。70は胴部中央付近が若干張り出す器形を呈する。71、77は口唇部に縄文が施文され、77は頸部にLRの縄文原体圧痕が施される。75は波状口縁を呈する。

底部の出土資料は底径が10cm～12cm位のものが多数を占める。87～92の底部片には網代度が見られる。

ミニチュア土器：(No.95 第28図、写真図版37)

本調査区から1点のみの出土である。手づくね製で文様はない。

2. 石器

石器についても出土量が少なく、出土した石器の中では剥片石器に対して礫石器の出土量が多い。剥片石器22点、礫石器53点を図化し掲載した。剥片石器は形状、調整痕跡や使用痕跡等から石鏃、石匙、スクレーパー類、ピエス・エスキューに分類し、細部調整されたもので定形的な刃部を持たないものを細部調整剥片として掲載した。その他石核・残核と見られるもの、リタッチドフレーク、ユーティライズドフレークと見られるもの、フレーク・チップ類等は掲載しなかった。

礫石器も形状、調整痕跡や使用痕跡等から石斧、石錘、凹石、磨石、敲石、敲磨石に分類した。調整痕跡がある礫でいずれの器種にも該当しないものは調整痕を有する礫とした。

1. 石鏃 (No.96～100 第29図、写真図版38)

本調査区から5点出土しており全点掲載した。基部の形状は平基、凸基、凹基、円基がある。石質は全て頁岩である。

2. 石匙 (No.101 第29図、写真図版38)

本調査区から1点のみの出土である。両側面から抉りを入れることにより作り出されたつまみ状小突起部を有する。つまみ部は器体の長軸方向に位置し、側縁の刃部と平行する縦型で石質は頁岩である。